

※※ 注意 ※※

本書に記載されている設定バーコードは**MS851B（無線接続）**のみで利用できる設定です。下記のリストに記された機種以外では使用できません。該当機器以外に適用した場合は、例え同じ系統の機器でも操作不能となる場合があります。

対象機器リスト

モデル名	インターフェースケーブル	クレードル
MS851-SUBB0C-SG	USB ケーブル	付属
MS851-S0BB0C-SG	USB 充電ケーブル	なし
MS851-SRBB0C-SG	RS232C ケーブル	付属
MS851-SUBB0C-LG	USB ケーブル（ESD 保護）	付属（ESD 保護）

対象機器の確認方法

スキャナ本体のトリガー付近または製品箱の製品ラベルをご確認ください。

スキャナ本体

CAUTION :

LASER LIGHT-DO NOT STARE INTO BEAM RAYONNEMENT LASER-NE PAS REGARDER DANS LE FAISCEAU. MAX. 1 mW: 650 nm. IEC 60825-1:2007 and IEC 60825-1:2014. Pulse duration of 16.8 mSec. Complies with 21CFR 1040.10 and 1040.11 except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated June 24, 2007.

CLASS 2 LASER PRODUCT.
APPAREIL A LASER DE CLASSE 2.

201-200028

Made in Taiwan 台灣製造 / Product of unitech

MODEL : MS851B

Bluetooth Barcode Scanner

藍牙條碼掃描器

S/N: 1234567890

MS851-SUBB0C-SG

D35280
RoHS

MS851-SUBB0C-SG I

S/N: 1234567890

UPC:

850003603735

S	Scan Engine	1D Laser
U	Interface	USB
B	Communication	Bluetooth
B	Cable	Black straight cable
O	Power supply	N/A
C	Accessory	Cradle
SG	Package	Standard

Power Source 5V=0.5A

Made in Taiwan 台灣製造 Product of unitech

FCC ID:HLEMS852BBT

201-200028

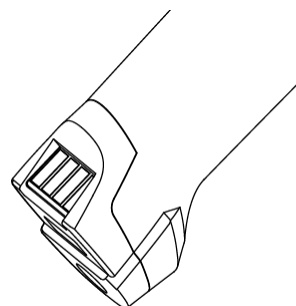
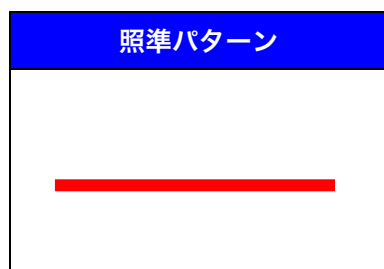
CCA420LP0512T8

WARNING

Cancer and Reproductive Harm
~www.P65Warnings.ca.gov.

製品箱

外観及び以下の機能の有無によっても見分けることが可能です。



グリップに充電用の端子がある

**ワイヤレス
レーザーバーコードスキャナ
MS851B
ユーザーマニュアル**



取扱説明書

Version 1.4

1. 目次

1. 目次.....	3
2. はじめに	10
2.1. 改訂履歴	10
2.2. 本マニュアルについて	10
2.3. 各認証について	11
2.3.1. 電波障害自主規制	11
2.3.2. 技術基準適合証明	11
2.3.3. RoHS について	11
2.4. バッテリーについて.....	12
2.4.1. バッテリーについての注意.....	12
2.4.2. バッテリー充電についての注意	13
2.4.3. バッテリーの保管と安全についての注意.....	13
2.5. 製品操作と保管について.....	14
2.6. 電源アダプタについて	14
2.7. レーザーについて.....	14
2.8. ESD 保護モデルについて	14
2.9. サービス・サポートについて	15
2.9.1. メーカー標準保証期間	15
2.9.2. 初期不良について	15
2.9.3. 修理保守サービスについて	15
2.10. 各部情報.....	16
2.10.1. MS851B 本体.....	16
2.10.2. クレドール本体.....	17
2.11. インターフェースケーブル.....	18
2.11.1. インターフェースポートの信号.....	18
2.11.2. D-SUB 9 コネクタの信号	18
2.11.3. USB インターフェースケーブル (1550-905890G)	19
2.11.4. ESD 保護 USB インターフェースケーブル (1550-905904G)	19
2.11.5. RS232C インターフェースケーブル (1550-905891G)	19
2.11.6. USB Type-C 充電ケーブル (1550-905892G)	19
2.12. パッケージ内容.....	20
2.13. アクセサリ (別売)	21
3. 基本操作	22

3.1. スキャナ電源操作	22
3.1.1. 電源オン操作	22
3.1.2. 電源オフ操作	22
3.2. クレードルボタン操作	22
3.3. スキャナの充電	23
3.3.1. クレードルを使用した充電	23
3.3.2. USB Type-C ケーブルを使用した充電	23
3.4. バッテリーの交換方法	24
3.4.1. バッテリーの取り外し	24
3.4.2. バッテリーの取り付け	25
3.5. ホストとの接続概要	26
3.5.1. クレードルを使った接続 (USB)	26
3.5.2. クレードルを使った接続 (RS232C)	26
3.5.3. Bluetooth による直接接続	26
3.6. ハンドフリースタンドへの設置	27
3.7. LED インジケーター (スキャナ)	28
3.8. LED インジケーター (クレードル)	28
3.9. ブザーインジケーター (スキャナ)	29
3.10. 基本的なバーコードの読取り方	30
3.10.1. 注意事項	30
4. 仕様	31
5. 対応シンボル初期値一覧	33
6. 設定方法について	34
7. システム設定	35
7.1. 設定バーコードの読み取り	35
7.2. 設定値の初期化	35
7.3. 設定値の初期化 (ペアリング情報の保持)	35
7.4. バージョン表示	36
7.5. オペレーションモード	36
7.6. 自動パワーオフ (省電力)	37
8. 通信設定	38
8.1. クレードル接続と Bluetooth 接続を切り替える	38
8.2. クレードルの自動ペアリング設定	38

8.3. Bluetooth®通信タイプ.....	39
8.4. ペアリング情報削除.....	40
8.5. 無線電波状態の確認.....	40
8.6. BT SPP 自動接続.....	41
8.7. BT SPP ACK/NAK.....	41
9. インジケータ設定.....	42
9.1. ブザー音量.....	42
9.2. バイブレーター.....	42
9.3. 読取成功インジケータ.....	43
9.4. 無線接続インジケータ.....	43
9.5. システム設定インジケータ.....	44
9.6. 警告・エラーインジケータ.....	44
9.7. パワーオンインジケータ.....	45
9.8. パワーオフインジケータ.....	45
10. 内蔵メモリ設定（バッチモード）.....	46
10.1. バッチデータ送信.....	46
10.2. 最後に保存されたデータを削除.....	46
10.3. すべてのバッチデータを削除.....	47
10.4. すべての一時データを削除.....	47
10.5. 内蔵メモリ容量の確認.....	47
10.6. 電源オフ時の一時データ.....	48
11. USB/BT/BLE キーボード設定.....	49
11.1. USB/BT/BLE キーボード文字間遅延.....	49
11.2. USB/BT/BLE キーボードデータ間遅延.....	50
11.3. 大文字/小文字の変換.....	51
11.4. キーボードレイアウト.....	51
12. RS232 設定.....	53
12.1. 標準設定値.....	53
13. データ送信設定.....	54

13.1. 送信データフォーマットについて.....	54
13.2. コード ID の送信.....	54
13.2.1. シンボルコード ID 一覧表.....	55
13.3. AIM コード ID 一覧表.....	56
13.3.1. AIM コード ID コード文字.....	56
13.3.2. AIM コード ID 修飾文字.....	57
13.4. ターミネーター.....	61
13.5. プリフィックスとサフィックス.....	62
13.6. 送信データフォーマット.....	63
13.7. “読取なし”メッセージの送信.....	64
13.8. バーコード内の制御コードの送信.....	64
14. トリガー操作設定.....	65
14.1. 自動プレゼンテーション.....	65
14.2. スキャンモード.....	66
14.3. 連続読取りモード.....	67
14.4. ユニークバーコードの読取り.....	67
14.5. 照準時間.....	68
14.6. デコードセッションタイムアウト.....	68
14.7. 同一バーコードの読取間隔.....	69
14.8. 異なるバーコードの読取間隔.....	69
14.9. スキャン角度.....	70
14.10. 拡張照準タイムアウト.....	71
14.11. iOS ソフトキーボード.....	71
15. バーコード読取設定.....	72
15.1. 全てのバーコードの読取り.....	72
15.2. UPC/JAN.....	73
15.2.1. UPC-A の読取り.....	73
15.2.2. UPC-E の読取り.....	73
15.2.3. UPC-E1 の読取り.....	73
15.2.4. JAN-8 の読取り.....	74
15.2.5. JAN-13 の読取り.....	74
15.2.6. ISBN の読取り.....	74
15.2.7. UPC/JAN アドオンコードの読取り.....	75

15.2.8. ユーザー定義アドオン	78
15.2.9. アドオンコードの確認回数	78
15.2.10. アドオンコードの AIM ID フォーマット	79
15.2.11. UPC-A チェックデジットの送信	80
15.2.12. UPC-E チェックデジットの送信	80
15.2.13. UPC-E1 チェックデジットの送信	80
15.2.14. UPC-A プリアンブル	81
15.2.15. UPC-E プリアンブル	82
15.2.16. UPC-E1 プリアンブル	83
15.2.17. UPC-E を UPC-A に拡張	84
15.2.18. UPC-E1 を UPC-A に拡張	84
15.2.19. JAN-8 を JAN-13 に拡張	84
15.2.20. ISBN の出力フォーマット	85
15.2.21. UCC クーポン拡張コード	85
15.2.22. クーポンフォーマット	86
15.2.23. ISSN の読取り	86
15.3. Code128	87
15.3.1. Code128 の読取り	87
15.3.2. Code128 読取り桁数	87
15.3.3. GS1-128 の読取り	88
15.3.4. ISBT 128 の読取り	88
15.3.5. ISBT 連結	89
15.3.6. ISBT テーブルチェック	89
15.3.7. ISBT 連結冗長性	90
15.3.8. Code128 セキュリティレベル	91
15.4. Code39	92
15.4.1. Code39 の読取り	92
15.4.2. Trioptic Code 39 の読取り	92
15.4.3. Code39 を Code32 に変換	93
15.4.4. Code32 プリフィックス	93
15.4.5. Code39 読取り桁数	94
15.4.6. Code39 チェックデジットの検査	95
15.4.7. Code39 チェックデジットの送信	95
15.4.8. Code39 読取りフォーマット	95
15.4.9. Code39 セキュリティレベル	96
15.5. Code93	97
15.5.1. Code93 の読取り	97
15.5.2. Code93 読取り桁数	97
15.6. Code11	98
15.6.1. Code11 の読取り	98
15.6.2. Code11 読取り桁数	98
15.6.3. Code11 チェックデジットの検査	99
15.6.4. Code11 チェックデジットの送信	99

15.7. Interleaved 2 of 5 (ITF)	100
15.7.1. ITF の読取り	100
15.7.2. ITF 読取り桁数	100
15.7.3. ITF チェックデジットの検査	101
15.7.4. ITF チェックデジットの送信	101
15.7.5. ITF を JAN13 に変換する	102
15.8. Discrete 2 of 5	103
15.8.1. Discrete 2 of 5 の読取り	103
15.8.2. Discrete 2 of 5 読取り桁数	103
15.9. Codabar (NW-7)	104
15.9.1. NW-7 の読取り	104
15.9.2. NW-7 読取り桁数	104
15.9.3. NW-7 CLSI 編集	105
15.9.4. NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信	105
15.9.5. NW-7 スタート・ストップキャラクタの大文字小文字	105
15.10. MSI	106
15.10.1. MSI の読取り	106
15.10.2. MSI 読取り桁数	106
15.10.3. MSI チェックデジットの検査	107
15.10.4. MSI チェックデジットの送信	107
15.10.5. MSI チェックデジットのアルゴリズム	107
15.11. Chinese 2 of 5	108
15.11.1. Chinese 2 of 5 の読取り	108
15.12. Korean 3 of 5	108
15.12.1. Korean 3 of 5 の読取り	108
15.13. Matrix 2 of 5	109
15.13.1. Matrix 2 of 5 の読取り	109
15.13.2. Matrix 2 of 5 読取り桁数	109
15.13.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査	110
15.13.4. Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信	110
15.14. GS1 Databar	111
15.14.1. GS1 Databar Omnidirectional の読取り	111
15.14.2. GS1 Databar Limited の読取り	111
15.14.3. GS1 Databar Expanded の読取り	111
15.14.4. GS1 Databar を UPC/JAN に変換	112
15.14.5. GS1 Databar Limited マージンチェックレベル	113
16. バーコードオプション	114
16.1. 反転 1 次元バーコード	114
16.2. 2 値バーコードのセキュリティレベル	115

16.3. 4 値バーコードのセキュリティレベル	116
16.4. 双方向冗長化	117
16.5. 文字間ギャップサイズ	117
17. 標準設定値一覧	118
18. クレードルを使用した接続方法	123
18.1. USB キーボードインターフェース	123
18.2. USB 仮想 COM インターフェース	124
18.2.1. USB CDC ドライバ	125
18.2.1.1. ドライバのダウンロードとインストール	125
18.2.1.2. COM ポート番号の確認	126
18.3. RS232C インターフェース	127
19. Bluetooth®を使用した接続方法	128
19.1. BT/BLE キーボード	128
19.1.1. Windows 10 との接続例	128
19.1.2. Android との接続例	129
19.1.3. OS (iPhone 等) との接続例	130
19.2. BT SPP	131
19.2.1. Windows 10 との接続例	131
19.2.2. Android との接続例	132
20. COM2KEY について	133
21. よくある質問	134
22. ASCII 文字セット	139
23. 数字バーコード	144
24. テストバーコード	145

2. はじめに

2.1. 改訂履歴

Version	発行日	改訂履歴
1.0	2020 年 6 月 19 日	● 日本語版正式リリース
1.1	2020 年 7 月 10 日	● ESD 保護モデルを追加
1.2	2020 年 7 月 16 日	● 2.12.パッケージ内容 の機種名を修正
1.3	2021 年 8 月 3 日	● 21.よくある質問 のクレードルの最大接続台数を 3 台から 1 台に修正
1.4	2021 年 9 月 9 日	● LED インジケーター（スキャナ） の動作の誤りを修正

2.2. 本マニュアルについて

本マニュアルは、MS851 ワイヤレスレーザーバーコードスキャナのインストール、操作、そして保守方法について説明しています。

本書のいかなる部分もユニテック社からの書面による許可なしで、いかなる形式でも、電子的あるいは機械的を問わず複製することはできません。これは、フォトコピー、レコーディング、あるいは情報の保存と検索システム等の電気的もしくは機械的な方法を含んでいます。

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© Copyright 2021 Unitech Electronics Co., Ltd. すべての著作権は Unitech 社が保有しています。

Unitech グローバル Web サイトアドレス: <https://www.ute.com/en>

ユニテック・ジャパン Web サイトアドレス: <https://www.ute.com/jp>

2.3. 各認証について

2.3.1. 電波障害自主規制

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

V C C I - B

2.3.2. 技術基準適合証明

このスキャナは、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。

本器は工事設計認証を取得していますので、分解・改造すると法律で罰せられることがあります。2.4GHz 付近の電波で通信している無線装置（Wi-Fi®など）の近くで本器を使用した通信を行なうと、双方の処理速度が落ちる場合や環境により通信ができなくなる場合があります。

スキャナ	クレードル
 201-200028	 201-200026

2.3.3. RoHS について

本装置は欧州連合の規定である電子機器で使用される有害物質の含有についての制限（Reduction Of Hazardous Sub-stances、RoHS）に適合しております。



2.4. バッテリーについて

2.4.1. バッテリーについての注意

MS851B は、リチウムイオンバッテリーを内蔵しています。バッテリーはしばらく使用しないと放電します。バッテリーが放電しきった場合、バッテリーを完全に充電するために約 6.5 時間の充電が必要です。

1. リチウムイオンバッテリーは、最適な性能を保持するために、毎年、あるいは 500 回の充放電を行ったら交換してください。一年以上の使用、または 500 回以上の充電を行ったバッテリーが、膨張するのは一般的です。膨張したからといって破損することはありませんが、使用可能時間が著しく減少したり、使用できなくなったりします。処分するには、地方公共団体の廃棄方法に従い安全に処分してください。
 2. バッテリーの性能低下が 20% 以上あれば、そのバッテリーの寿命です。続けて使用をしないでください。また、バッテリーを適切に廃棄処理してください。
 3. バッテリーの使用可能時間は、使用方法や環境によって異なります。以下の方法でバッテリーの寿命を節約します：
 - 完全放電を繰り返さない。完全放電はバッテリーに余計なストレスをかけます。一部を放電し充電を何度も行う方が完全放電よりも望ましいと言えます。リチウムイオンバッテリーを部分的に充電することは、メモリ効果がないので、問題になることはありません。
 - リチウムイオンバッテリーは、車中などの高温多湿の場所は避け、涼しい場所においてください。長期間保存する場合は、バッテリーを 40% 程度の充電で保存してください。
 - リチウムイオンバッテリーを放電したまま長期間使わずに放置しないでください。バッテリーは消耗し、寿命は充電を繰り返す場合より半分以下と短くなります。
 4. バッテリーを不要に充電しすぎたり、完全放電したりせずに、バッテリーの寿命を節約してください。
 5. バッテリーを充電せずに長時間未使用のまま放置しないでください。ユニテックの施している安全対策にかかわらず、バッテリーパックが変形するかもしれません。バッテリーパックの変形を確認した場合は直ちに使用を中止し、バッテリーを交換するか、サービスセンターへ連絡してください。
 6. 長時間の充電でも充電できず、バッテリーが通常以上に発熱し始めた場合は、直ちに充電を中止してください。そのバッテリーは機能を失っている可能性があります。
 7. ユニテックの純正バッテリーのみを使用してください。サードパーティ製のバッテリーを使用すると、正常に動作しなかったり、機器に損傷を与えたり、バッテリーが破損する可能性があります。このような破損が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。
- 注意！** 電池の交換方法を誤ると爆発する危険性があります。バッテリー交換が可能な製品については、その製品のバッテリー交換方法に従って、適切に交換してください。
- 注意！** 使用済みの電池は、各地方自治体の案内に沿って適切に廃棄してください。廃棄方法を誤ると、その地方自治体によって罰せられる可能性があります。

2.4.2. バッテリー充電についての注意

リチウムイオンバッテリーを充電する場合は、周囲の温度を考慮することが重要です。充電は室温あるいはやや涼しい温度で行うのが最も効果的です。バッテリーは 0°C から 40°C の範囲で充電を行ってください。この範囲外でバッテリーを充電すると、バッテリーにダメージを与え、寿命が短くなります。

注意！ 0°C 以下でバッテリーを充電しないでください。内部抵抗が増加し、バッテリーが発熱したり不安定になったりして非常に危険です。

注意！ 機器を正常に動作させるために、すべてのコネクタには、ほこり、グリース、泥、水などの汚染物を近づけないでください。これらの過失は、機器との接触不良や回路の短絡、異常発熱を引き起こす原因となります。

注意！ バッテリーやクレードルの接点に水や汚れが付着している場合は、充電を行う前に乾いた布や綿棒等で拭いてください。汚れがひどい場合はアルコールを少し含ませてから拭いてください。

注意！ コネクタの破損は短絡の原因となります。コネクタの破損を見つけた場合は修理をご検討ください。

2.4.3. バッテリーの保管と安全についての注意

数ヶ月間使用されなかった充電済みのリチウムイオンバッテリーの容量は、内部抵抗により消耗します。この場合、使用する前に充電する必要があります。リチウムイオンバッテリーは、-20°C から 60°C の間で保管することができますが、高い温度ではより早く消耗します。バッテリーは高温多湿を避けた涼しい場所で保管することをお勧めします。

2.5. 製品操作と保管について

ユニテック製品には適用される動作温度や、保存温度条件があります。故障、破損、誤動作を避けるため、機器の制限に従ってください。

2.6. 電源アダプタについて

1. ユニテック製品を充電していないときは、電源アダプタをソケットから取り外してください。
2. バッテリーの充電が完了したら、電源アダプタを取り外してください。
3. ユニテック製品に付属している電源アダプタは、屋外使用は想定されていません。水や雨にさらされたり、高温や多湿の環境で使用したりすると、アダプタと製品の双方に損傷を与える可能性があります。
4. ユニテック製品の充電には、付属の電源アダプタのみをご使用ください。誤った電源アダプタを使用すると、製品が破損する可能性があります。

2.7. レーザーについて

Unitech 製品は、DHHS/CDRH 21 CFR Subchapter J 要件と IEC 825-1 要件に適合するために米国で認証されています。CDRH Class II 製品と IEC 825 Class 2 製品は危険であるとは考えられておりません。スキャナは上記の規制の最大値を越えることのない可視レーザダイオード（VLD）を内蔵しています。本製品は通常の使用や保守・修理作業において、レーザー光が人体に害を及ぼさないように設計されています。

レーザー警告文は、製品ラベルに記載されています。

注意！ 仕様外の方法でコントロール・調整・使用することは、レーザー光が危険となることがあります。スキャナを双眼鏡、顕微鏡、拡大鏡などの光学機器と一緒に使用すると目への危険が増加します。この光学機器には使用者がかけている眼鏡は含みません。

2.8. ESD 保護モデルについて

ユニテックの ESD 保護モデルは、クリーンルームや静電気対策が必要な製造環境などの厳しい要求を満たすように設計されています。ユニテックの ESD 保護モデルは、ボディに帯電防止剤を練り込んであり、これによりケーブルを含めた製品を静電気から保護し、ESD 保護が必要な環境での使用における安全性を備えています。製品本体とケーブルは、平方単位あたり最大 $10^5\Omega \sim 10^9\Omega$ の静電気放電に耐えることができ、塩素系の材料は含まれていません。帯電防止剤練り込み方式は、あとからボディの外部に帯電防止剤を塗布する方式よりも長期間の ESD 保護を提供することができます。ボディに練り込まれた帯電防止剤がボディの表面に浮き出ることによって帯電防止効果を発揮し、ボディの摩耗、削れ、拭き取りなどから帯電防止性能が低下することを長期間防止します。練り込み方式は、製造環境でのワークフローを合理化するために信頼できる方式です。

2.9. サービス・サポートについて

2.9.1. メーカー標準保証期間

当社のメーカー標準保証は、以下の保証期間中に通常の使用状況で発生した故障に対して適用されます。

- MS851 スキャナ本体、クレードル本体 — 1 年間
- バッテリーパック — 3 ヶ月
- ケーブルなどを含むその他アクセサリ類 — 3 ヶ月

保証は、機器の改造、不適切な取付けや使用、事故または不注意による落下等における損傷、あるいは何らかのパーツが不適切に取り付けられていたり、もしくはユーザーによってパーツを交換されていたりする場合は対象外となります。

2.9.2. 初期不良について

当社の初期不良対応期間は、ご購入後 2 週間です。これはご購入後使用していなかった期間も含まれます。ご購入後初期不良を確認した場合は、速やかにご購入いただいた代理店／販売店へご連絡ください。

初期不良の場合は、以下の場合を除き、原則、製品交換にて対応させていただきます。

- ご購入時の製品状態（本体、アクセサリ、マニュアル、梱包箱など）から欠品がある場合
- 使用者による破損など、通常保証の範囲外となる場合

2.9.3. 修理保守サービスについて

MS851B の修理サービスをご希望のお客様は、ご購入いただいた代理店／販売店へご相談いただくか、弊社サービスセンターへ直接障害機をお送りください。

弊社サービスセンターへ直接お送りいただく場合は、必ず修理依頼書をご記入頂き障害機に同封してください。事前にメールや FAX をいただく必要はございません。修理依頼書と障害機が同梱されている場合は、障害機受領後、順番に対応させていただきます。修理依頼書は下記のリンクよりダウンロードすることができます (PDF または MS WORD)。

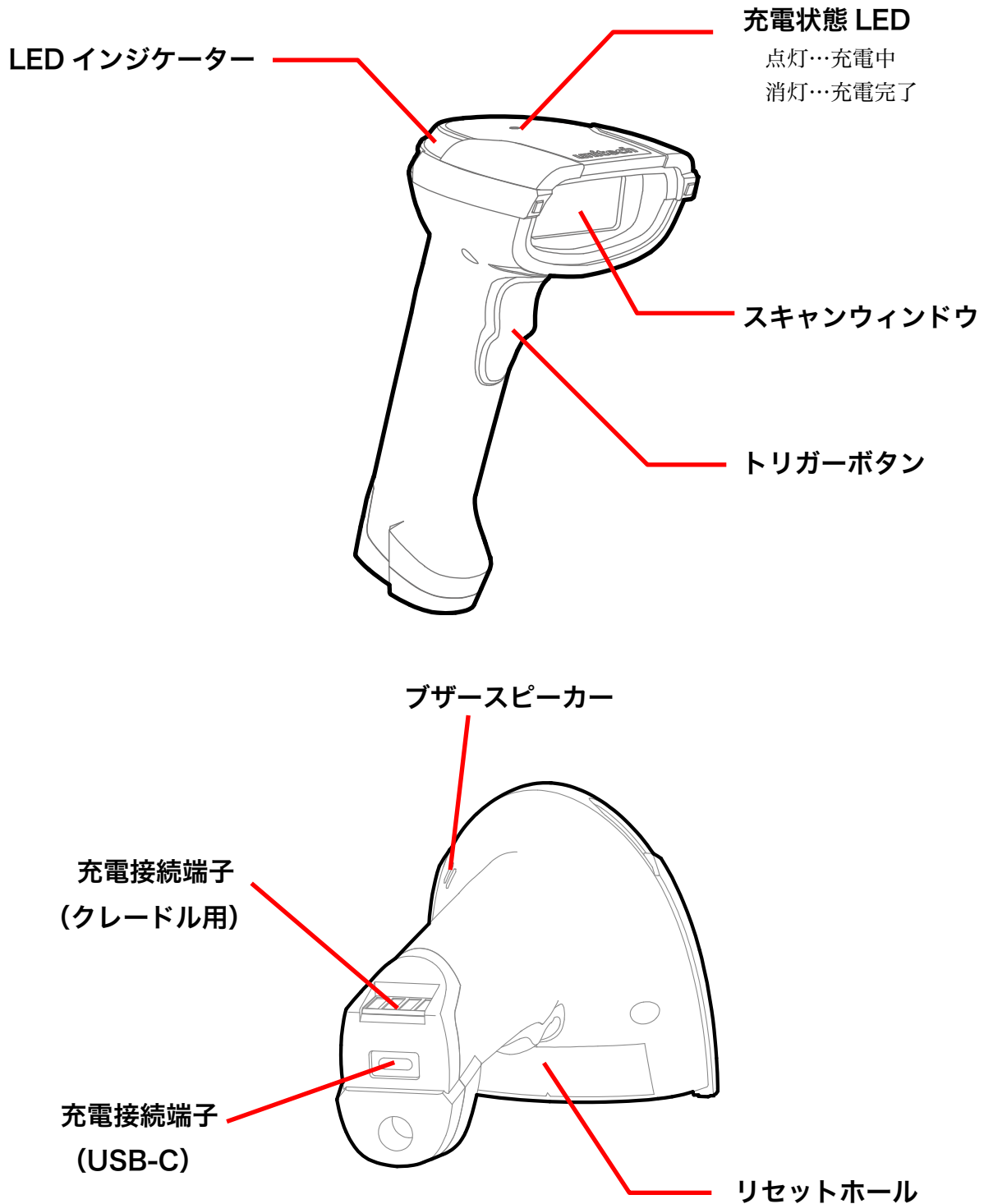
[PDF] http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.pdf

[MS WORD] http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.docx

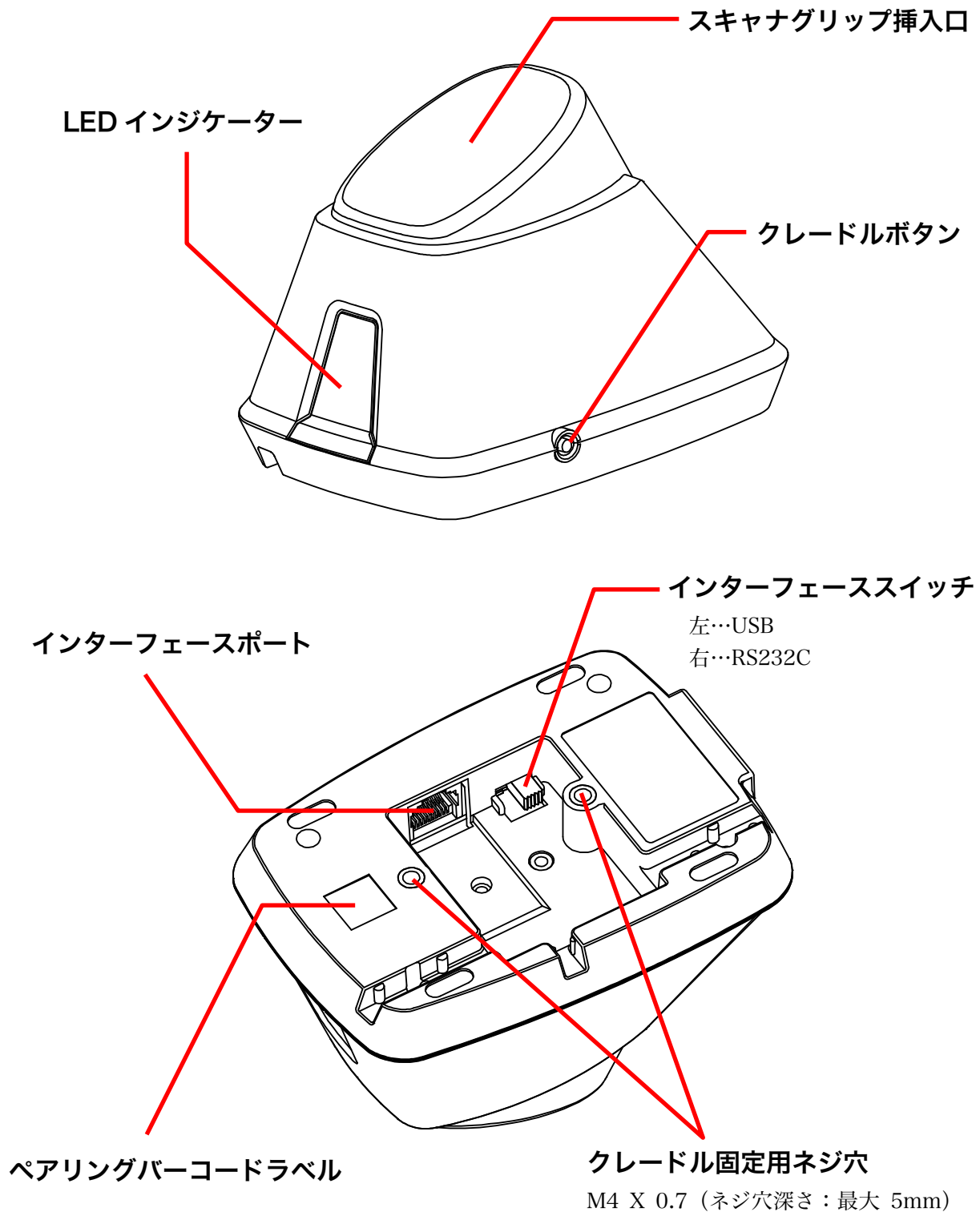
修理費用のお見積りやお支払い方法など、修理ご依頼時の詳細については、修理依頼書に記載されております。上記ダウンロード後、必ずご一読ください。

2.10. 各部情報

2.10.1. MS851B 本体



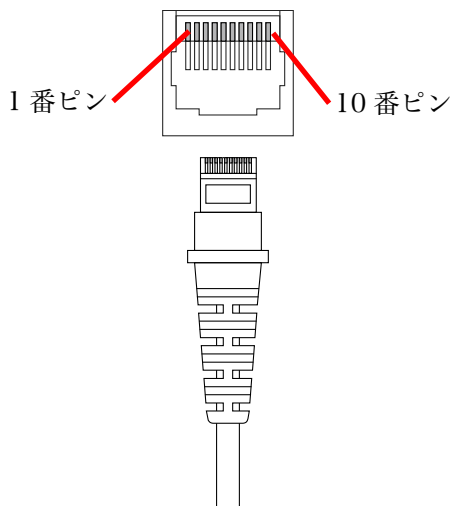
2.10.2. クレードル本体



2.11. インターフェースケーブル

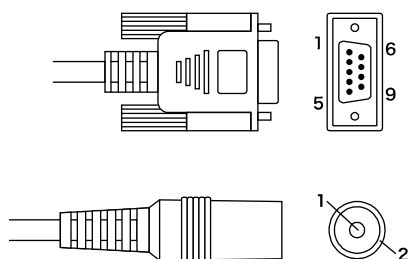
2.11.1. インターフェースポートの信号

クレードルインターフェースポート



PIN	RS232C	USB
1		D+
2	VCC (+5V)	
3		GND
4	GND	コネクタシエル
5	RxD	
6	TxD	
7		VCC (+5V)
8	CTS	
9	RTS	
10		D-

2.11.2. D-SUB 9 コネクタの信号

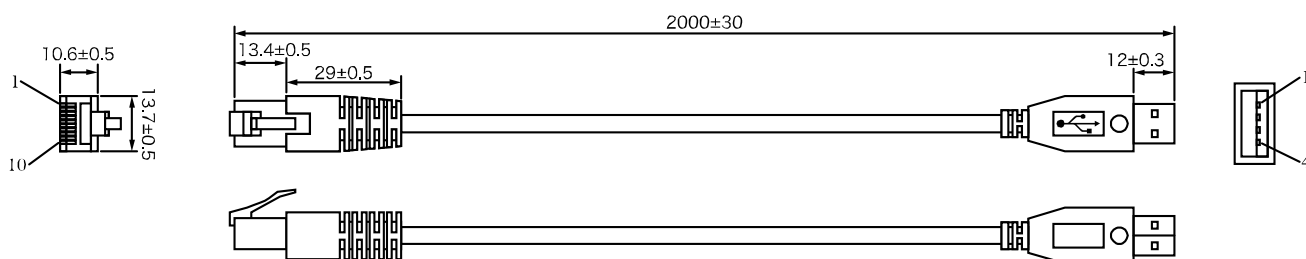


ピン番号	D-SUB 9
1	
2	RxD
3	TxD
4	
5	GND
6	
7	RTS
8	CTS
9	VCC (+5V)

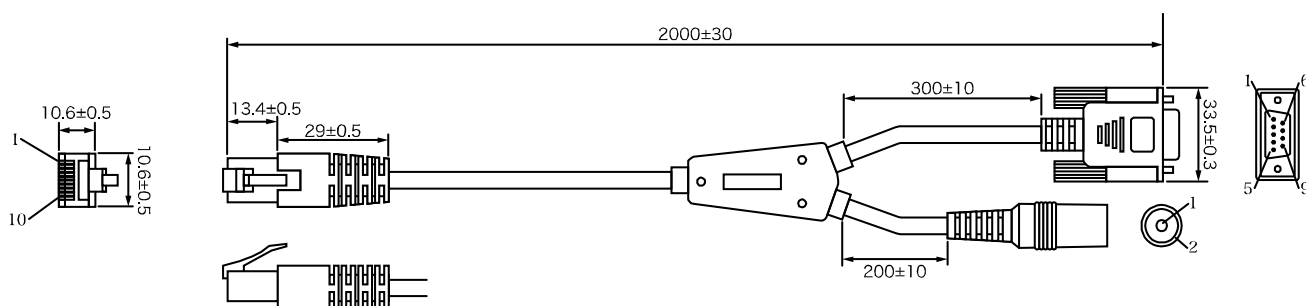
ピン番号	電源入力
1	電源 (+5V)
2	GND

2.11.3. USB インターフェースケーブル (1550-905890G)

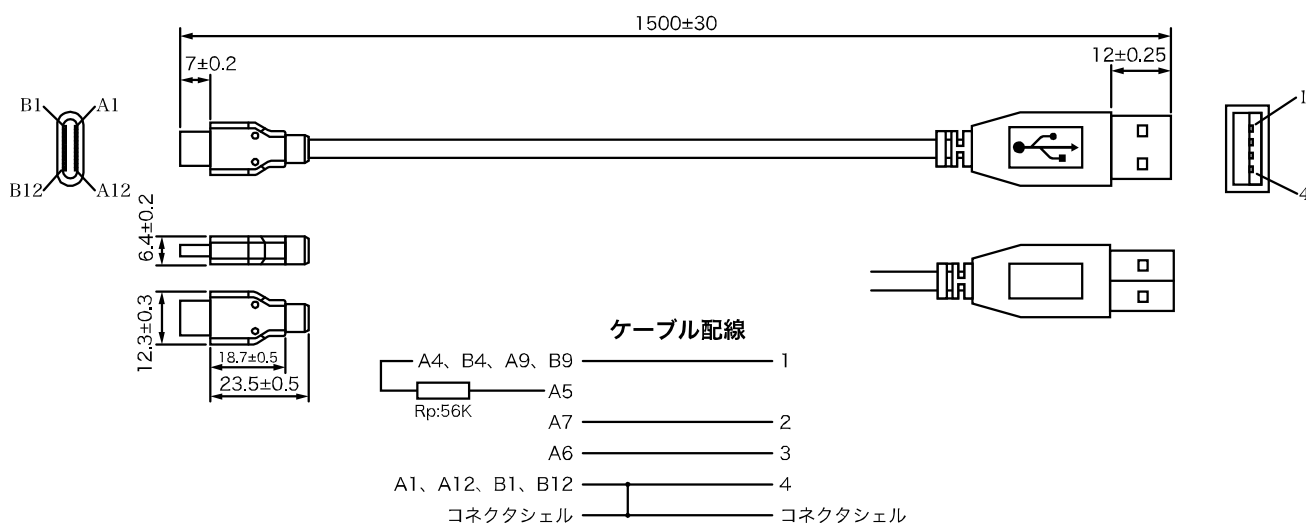
2.11.4. ESD 保護 USB インターフェースケーブル (1550-905904G)



2.11.5. RS232C インターフェースケーブル (1550-905891G)



2.11.6. USB Type-C 充電ケーブル (1550-905892G)



2.12. パッケージ内容

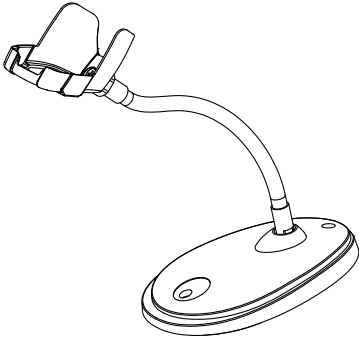
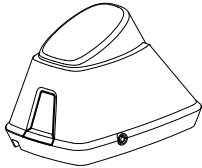
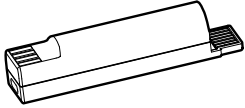
	MS851-SUBB0C-SG	MS851-SRBB0C-SG	MS851-S0BB00-SG
スキャナ本体（バッテリー内蔵）	✓	✓	✓
クレードル本体	✓	✓	
USB インターフェースケーブル	✓		
RS232 インターフェースケーブル		✓	
RS232 用 AC アダプタ		✓	
USB-C 充電ケーブル			✓
クイックガイド	✓	✓	✓
バッテリー交換ガイド	✓	✓	✓
保証書	✓	✓	✓
ユーザー登録カード	✓	✓	✓
無償延長保証について	✓	✓	✓

(ESD 保護モデル)

	MS851-SUBB0C-LG		
ESD スキャナ本体（バッテリー内蔵）	✓		
ESD クレードル本体	✓		
ESD USB インターフェースケーブル	✓		
クイックガイド	✓		
バッテリー交換ガイド	✓		
保証書	✓		
ユーザー登録カード	✓		
無償延長保証について	✓		

✂ ESD 保護されている製品は、スキャナ本体（バッテリー含まず）、クレードル本体、USB ケーブル本体です。

2.13. アクセサリ（別売）

製品番号	製品名	
5200-900009G	ハンドフリースタンド	
1550-905890G	USB インターフェースケーブル（交換用予備）	
1550-905904G	ESD 保護 USB インターフェースケーブル（交換用予備）	
1550-905891G	RS232C インターフェースケーブル（交換用予備）	
1550-905892G	USB Type-C 充電ケーブル	
5000-900064G	クレードル（本体のみ）	
1400-900055G	メインバッテリー（交換用予備）	
1010-900008G	RS232C 用 AC アダプタ（交換用予備）	
1010-900026G	USB 用 AC アダプタ	

3. 基本操作

3.1. スキャナ電源操作

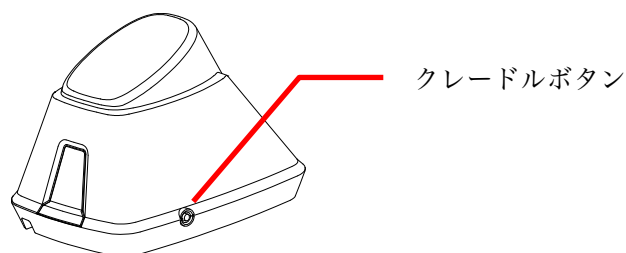
3.1.1. 電源オン操作

スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続けます。

3.1.2. 電源オフ操作

スキャナのトリガーボタンを 7 秒以上引き続けます。

3.2. クレードルボタン操作



操作	動作
押してすぐに放す	接続中のスキャナを呼び出す
2 秒押し続ける	接続中のスキャナとの接続を解除する
5 秒以上押し続ける	クレードルの初期化 クレードルの機器情報の送信 *
押しながら USB ケーブルを接続（電源オン）	ファームウェア更新モード

*クレードル機器情報の送信方法

- ①USB インターフェースケーブルを外します。
- ②インターフェーススイッチを左（USB）側に変更します。
- ③USB インターフェースケーブルでホストと接続します。
- ④ホストでメモ帳などのテキストエディタを実行します。
- ⑤クレードルボタンを 5 秒以上、情報が送信されるまで押し続けます。

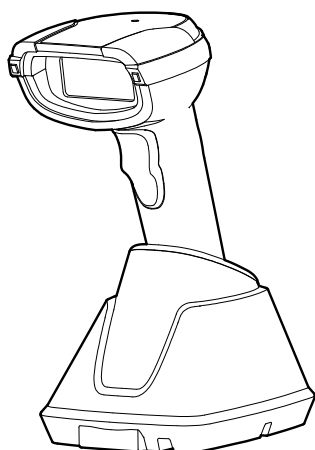
スキャナの機器情報を確認するには、[7.4.バージョン表示](#)（36 ページ）をご利用ください。

3.3. スキャナの充電

3.3.1. クレードルを使用した充電

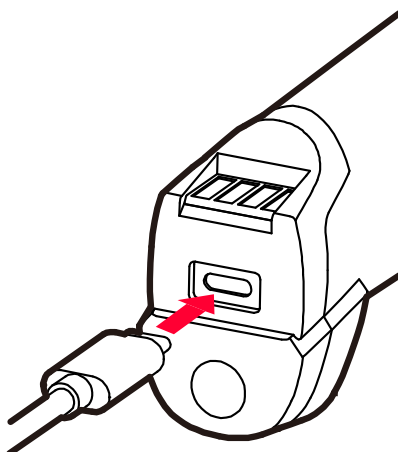
クレードルとホスト PC を付属の USB インターフェースケーブルまたは RS232C インターフェースケーブルで接続し、スキャナをクレードルに挿入して充電します。RS232C インターフェースケーブルで接続する場合は、付属の専用 AC アダプタを接続するか 9 番ピンに 5V で接続してください。

注意！ このときホスト PC（機器）からクレードルに対して電源が供給されている必要があります。そのため、ホスト PC がシャットダウンされていると充電されない場合があります。ご注意ください。



3.3.2. USB Type-C ケーブルを使用した充電

スキャナ本体の底部にある USB Type-C 充電ポートに付属の USB Type-C ケーブルを接続し、反対側の USB B コネクタはホスト PC または USB 充電アダプタに接続します。本機はバッテリーを取り外した状態での充電には対応しておりません。

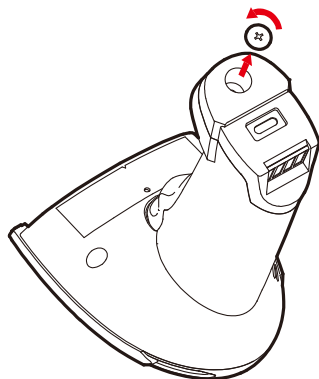


3.4. バッテリーの交換方法

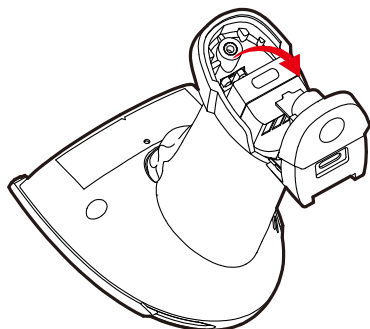
3.4.1. バッテリーの取り外し

スキャナのバッテリーを取り外すには以下の手順に従ってください。

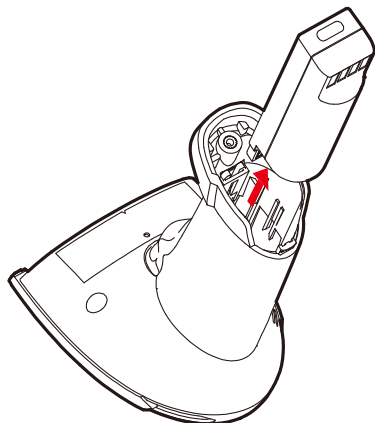
1. スキャナ底部のバッテリーカバーのネジを反時計回りに回して取り外します。



2. バッテリーカバーを取り外します。このとき下図のように後方を支点に持ち上げてください。



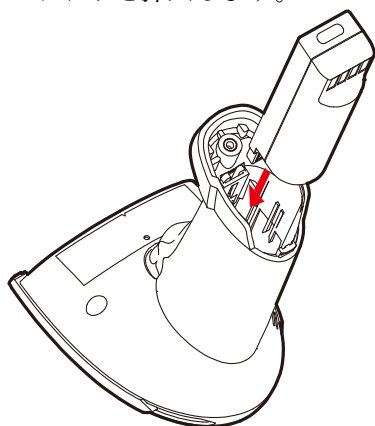
3. バッテリーを引き抜きます。



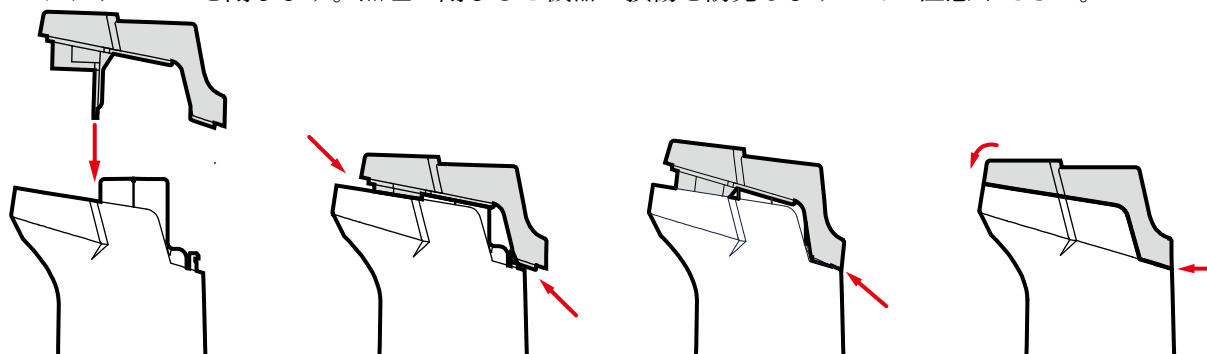
3.4.2. バッテリーの取り付け

スキャナのバッテリーを取付けるには以下の手順に従ってください。

1. バッテリーを挿入します。

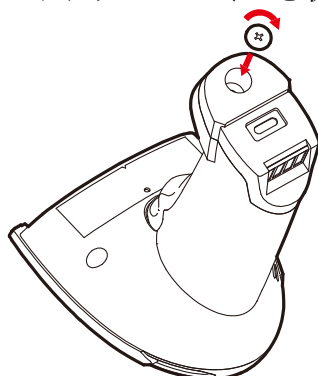


2. バッテリーカバーを閉じます。無理に閉じると機器の損傷を誘発しますのでご注意ください。



①カバーをグリップに軽く差し込みます。	②本体の背面側へ少しずらしします。	③本体背面側のフックにカバーを固定します。	④フック部がはずれないように軽く押えながら、カバーをグリップにはめ込みます。
---------------------	-------------------	-----------------------	--

3. バッテリーカバーにネジを取り付け、ネジを時計回りに回して固定します。

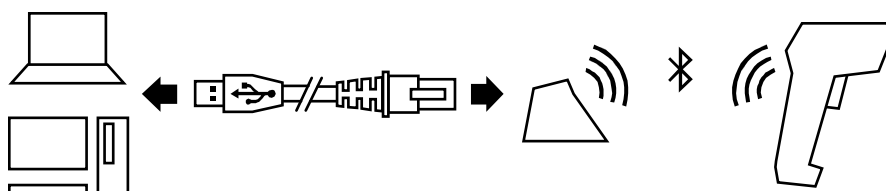


3.5. ホストとの接続概要

接続操作の方法については、[18.クレードルを使用した接続方法](#)（123 ページ）または、[19.Bluetooth®を使用した接続方法](#)（128 ページ）をご確認ください。

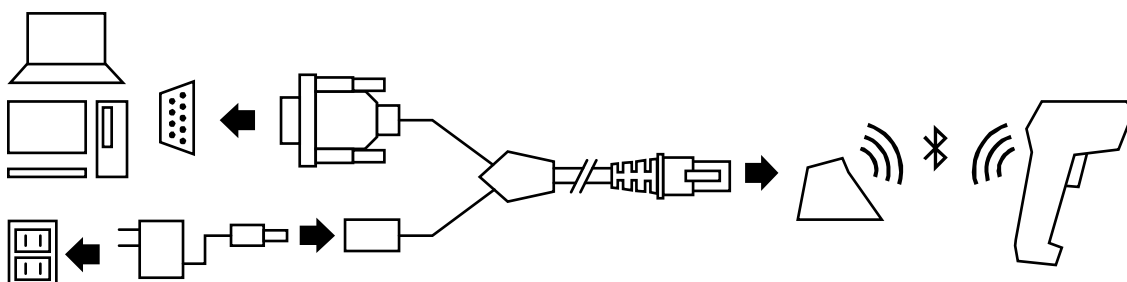
3.5.1. クレードルを使った接続（USB）

クレードルとホストを USB インターフェースケーブルで接続し、クレードルとスキャナは Bluetooth でワイヤレス接続します。これは本機の標準接続方法です。USB キーボードエミュレーションと、USB 仮想 COM エミュレーション（CDC プロトコル）に対応しています。



3.5.2. クレードルを使った接続（RS232C）

クレードルとホストを RS232C インターフェースケーブルで接続し、クレードルとスキャナは Bluetooth でワイヤレス接続します。



3.5.3. Bluetooth による直接接続

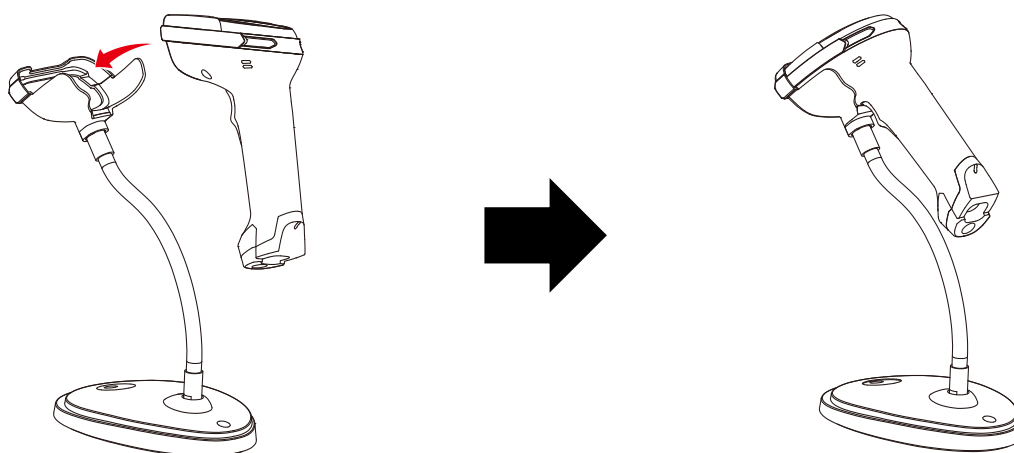
スキャナとホストを Bluetooth で直接接続する方法です。Bluetooth Classic の HID（Human Interface Device）プロファイルと SPP（Serial Port Profile）および、BLE（Bluetooth Low Energy）の HID over GATT に対応しています。



3.6. ハンドフリースタンドへの設置

ハンドフリースタンドへスキャナのヘッドをはめ込むように設置してください。[14.2.スキャンモード](#)（66ページ）の**連続**または**点滅**と組み合わせるとハンドフリーでの自動読取り操作が可能となります。

注 自動読取り時には、読み取りたいバーコードの規格のみを読取り有効化し、読取り可能な文字数を制限することをお勧めいたします。それらを適切に設定していない場合、アイドリング時に突然スキャナが読取り反応を起こす場合があります。



3.7. LED インジケーター（スキャナ）

充電状態 LED（天板）

状態	LED ランプ
バッテリー充電中	赤ランプ点灯
バッテリー充電完了	消灯

LED インジケーター（後方）

状態	LED ランプ
バッテリー残量 10% 以下	2 秒間隔で赤ランプが点滅
バッテリー残量 5% 以下	他の LED をすべて停止して赤ランプが高速点滅
システム警告/エラー	5 秒間隔で赤ランプが点滅。 (トリガーキーが押されるまで)
読み取り成功	緑ランプが 1 回点滅
自動プレゼンテーションモード	2 秒間隔で緑ランプが点滅
システムビジー/スキャンニング無効	1 秒間隔で緑ランプが点滅
Bluetooth ペアリングモード	1 秒間隔で青ランプが点滅
Bluetooth 接続中	青ランプ点灯
Bluetooth 切断中（圏外等）	緑ランプ点灯
Bluetooth 電波微弱、送信不安定	青ランプが高速点滅
ファームウェア更新モード	白ランプ点灯

3.8. LED インジケーター（クレードル）

状態	LED ランプ
ホストとの通信不可	赤ランプ点灯
Bluetooth ペアリングモード	1 秒間隔で青ランプが点滅
Bluetooth 接続中	青ランプ点灯
Bluetooth 切断中（圏外等）	緑ランプ点灯
システムビジー/データ送受信無効	1 秒間隔で緑ランプが点滅
クレードルファームウェア更新モード	白ランプ点灯
スキャナファームウェア更新モード	1 秒間隔で白ランプが点滅

3.9. ブザーインジケータ（スキャナ）

状態	ブザー
電源オン（自動モード）	1 回鳴動
電源オン（ウェッジモード）	2 回鳴動
電源オン（バッチモード）	3 回鳴動
自動電源オフ警告	自動電源オフが実行される 15 秒前に短く 2 回鳴動
電源オフ	短く 鳴動
読み取り成功（Bluetooth 接続中）	1 回鳴動
読み取り成功（Bluetooth 切断中）	2 回鳴動（中音→高音）
Bluetooth 接続完了	3 回鳴動（低音→中音→高音）
Bluetooth 切断完了	3 回鳴動（高音→中音→低音）

3.10. 基本的なバーコードの読取り方

スキャナから照射されるレーザー光線が、バーコードの端から端まで横切るように走査してください。バーコードを読み取るときは鉛直から読み取るのではなく、ある程度傾けて読取ってください。



3.10.1. 注意事項

- ✓ スマホの画面など電子ディスプレイ上のバーコードを読み取ることはできません。
- ✓ 鏡面素材に直接印字されたバーコードを読み取ることはできません。
- ✓ 透過素材に直接印字されたバーコードを読み取ることはできません。
- ✓ バーコードの左右に十分な余白が取られていない場合は読取ることができません。
- ✓ テプラなどの光が鏡面反射しやすい台紙上のバーコードは読取れない場合があります。
- ✓ バーコードがラミネート加工されている場合は読取れない場合があります。
- ✓ 曲面に貼付けられたバーコードは読取れない場合があります。
- ✓ バーコードの印字品質によっては読取れない場合があります。
- ✓ 色の組み合わせによっては読取れない場合があります。

読取り可能な例	読取り不可な例

- ✓ LED 照明下では、LED 照明の光の波形がスキャナのレーザーの波形に近い場合、バーコードが読取れない場合があります。そのときは、手をかざすなどしてバーコードに影を作って読み取ってください。
- ✓ レーザー可動部は高速で動作しています。外部からの強い衝撃を受けると可動部が損傷して安定したレーザー照射ができなくなります。

4. 仕様

モデル		MS851-SUBB0C-SG MS851-S0BB00-SG MS851-SRBB0C-SG	MS851-SUBB0C-LG
光学系	エンジン	レーザーエンジン	
	光源	650 nm 可視レーザーダイオード（クラス2レーザー製品）	
	環境光	屋内および屋外（直射日光下）の照明条件に耐性があります。蛍光灯、白熱灯、水銀灯、ナトリウム灯、LED：4,844ルクス、太陽光：107,644ルクス。 注意！ LED照明の近くで使用すると、読み取りパフォーマンスに影響が出て、読み取り速度が遅くなったり、読取れなかったりする可能性があります。	
	最小分解能	0.127mm	
	読取速度	104（±12）スキャン/秒（双方向）	
	スキュー角度	± 40°	
	ピッチ角度	± 65°	
	印刷コントラスト比	最小 25%	
	読み取り距離 ¹	Code128	3.55cm～17.78cm（細バーの幅：0.127mm）
		Code39	3.05cm～26.67cm（細バーの幅：0.127mm）
		Code39	3.04cm～41.91cm（細バーの幅：0.191mm）
		Code128	3.05cm～40.46cm（細バーの幅：0.254mm）
		UPC	4.57cm～63.50cm（細バーの幅：0.330mm）
		Code128	5.08cm～66.04cm（細バーの幅：0.381mm）
		Code39	3.56cm～116.84cm（細バーの幅：0.508mm）
		Code39	8.64cm～177.80cm（細バーの幅：1.397mm）
		Code39	60.96cm～457.20cm（細バーの幅：2.540mm）
無線	通信規格	Bluetooth® LE V4.2 および Bluetooth® Classic V2.1+EDR デュアルモード	
	通信距離	Class 1 ² （見通し最大 100 メートル）	
	プロファイル	HID、SPP	
機械仕様	外寸	87.8mm x 71.6mm x 177.7mm（スキャナ本体のみ）	
	重量	213g（スキャナ本体のみ）	
	トリガー寿命	1,000 万回	

機能	対応シンボル	1次元	JAN/EAN/UPC、Code 128、GS1-128 ³ 、Code 39、Trioptic、Code 93、Code 11、Interleaved 2 of 5 (ITF)、Discrete 2 of 5、Codabar (NW-7)、MSI、Chinese 2 of 5、Korean 2 of 5、Matrix 2 of 5、GS1 DataBar シリーズ ³	
	トリガーモード		レベル、パルス、連続、点滅	
	データフォーマット		ターミネーター、プリフィックス、サフィックス、コード ID、	
	インジケーター		LED、ブザー、バイブレーター	
内蔵メモリ	容量	自動モード用	20 KB	
		バッチモード用	7 MB	
	保存件数	自動モード	約 1,500 件	
		バッチモード	約 590,000 件	
電源	バッテリータイプ		交換可能な充電式リチウムイオン電池	
	バッテリー容量		2850 mAh	
	充電時間		最大 6.5 時間	
	動作時間		30 時間以上（新品バッテリー）	
耐環境	ESD 保護		8K コンタクトおよび 15K エア、テスト後正常動作	
	電気抵抗値		-	10 ⁵ Ω~10 ⁹ Ω
	落下テスト		2.1 M からコンクリート床（スキャナ本体のみ） ⁴	
	防塵・防水		IP42	
	動作温度範囲		-10℃ から 50℃	
	保存温度範囲		-40℃ から 70℃	
	相対湿度		95% 結露無いこと	
認証			CE, FCC, BSMI, VCCI, TELEC, NCC, BQB	
クレードル	インターフェース		USB、USB 仮想 COM、RS232C	
	外寸		120.6mm x 88.7mm x 86.0mm	
	重量		161g	

*1 読み取り距離はバーコードの幅に依存します。

*2 通信距離はホストの Bluetooth 通信距離に依存します。

*3 AI の編集には対応していません。括弧の出力には対応していません。

*4 弊社テスト基準に基づく落下試験における実験値であり、無破損・無故障を保証するものではありません。

5. 対応シンボル初期値一覧

スキャナは以下のバーコードシンボルの読取りに対応しています。○は、初期設定の状態で読取れるかどうかを表しています。○のないバーコードシンボルは、[15.バーコード読取設定](#)（72 ページ）を参考に個別に設定が必要です。初期設定で読取れるバーコードシンボルでも読取れない場合は、[17.標準設定値一覧](#)（118 ページ）を参考に設定を確認してください。

UPC-A	○	Discrete 2 of 5	
UPC-E	○	Codabar	○
EAN/JAN-8	○	MSI	
EAN/JAN-13	○	Chinese 2 of 5	
Code 128	○	Korean 2 of 5	
Code39	○	Matrix 2 of 5	
Trioptic		GS1 DataBar	○
Code 93		GS1 DataBar Limited	○
Code 11		GS1 DataBar Expanded	○
Interleaved 2 of 5			

6. 設定方法について

スキャナは、専用の設定バーコードを読み込ませることで設定の変更を行います。変更された設定は不揮発性メモリに保存され、スキャナの電源を切っても設定は保持されます。

スキャナの設定を変更するには、ターゲットの設定バーコードを読み込ませてください。

MS851 は電子モニター上での読取りをサポートしていません。設定を行う場合は、必ず紙に印刷してからご使用下さい。

設定バーコードの仕様については、次の例図をご参照ください



7. システム設定

7.1. 設定バーコードの読み取り

設定バーコードによるパラメータ変更を無効にすることができます。

初期値 = 有効



無効



有効

7.2. 設定値の初期化

スキャナを設定を初期化するために以下のコードを使用します。このオプションは Bluetooth のペアリング設定も初期化します。初期化中はトリガー操作が無効となります。



工場出荷デフォルト

7.3. 設定値の初期化（ペアリング情報の保持）

通信状態やペアリングに関する情報を保持したままスキャナの設定を初期化する場合は、こちらのコードを使用してください。



工場出荷デフォルト（ペア情報保持）

7.4. バージョン表示

スキャナのファームウェアバージョン情報をホストに表示します。このコマンドを使用する場合、スキャナとホストが正常に接続されていて、ホストで表示可能なアプリケーションが実行されている必要があります。



バージョン表示

7.5. オペレーションモード

スキャナは以下の3つのオペレーションモードをサポートしています。

ウェッジモード — 無線通信中はリアルタイムに読み取ったデータをホストに送信します。無線切断中に読み取ったバーコードは破棄されます。

バッチモード — 無線通信を停止し、常に**内蔵メモリ**へデータを保存します。保存したデータは専用のバーコードを読み取って送信します。バッチモードを使用する場合は [10.内蔵メモリ設定（バッチモード）](#)（46 ページ）も合わせてご覧下さい。

自動モード* — 無線通信中はリアルタイムに読み取ったデータをホストに送信します。無線切断中に読み取ったバーコードは**一時メモリ**へ待避され、無線接続されると同時にすべての待避データを送信します。一時メモリへ待避したデータは、ホストへ送信されるか電源が OFF になると自動的に削除されます。

初期値 = 自動モード



ウェッジモード



バッチモード



自動モード

7.6. 自動パワーオフ（省電力）

スキャナは無操作を続けた場合の省電力による自動パワーオフをサポートしています。

初期値 = 15 分



5 分



15 分



30 分



1 時間



2 時間



4 時間



6 時間



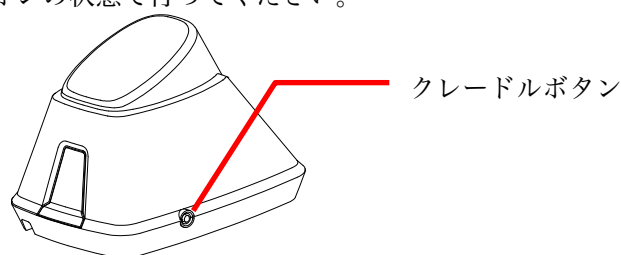
自動パワーオフしない

8. 通信設定

8.1. クレードル接続と Bluetooth 接続を切り替える

クレードル接続から Bluetooth 接続に切り替えるには、最初に 7.2.設定値の初期化（35 ページ）または 8.4.ペアリング情報削除（40 ページ）のコードを読取り、次に 8.3.Bluetooth®通信タイプ（39 ページ）の任意のコードを読み取ります。

Bluetooth 接続からクレードル接続に切り替えるには、最初に 7.2.設定値の初期化（35 ページ）または 8.4.ペアリング情報削除（40 ページ）のコードを読取り、次にクレードルボタンを 2 秒間押し続けてから放します。※この操作は、クレードルの電源がオンの状態で行ってください。



上記の操作後、ホストの Bluetooth®やクレードルとペアリングしてください。

8.2. クレードルの自動ペアリング設定

クレードルのペアリング待機時に、スキャナをクレードルに挿入したとき、自動的にペアリングを開始するかどうかを設定します。この機能が**無効**の場合、クレードルとのペアリングにはペアリングバーコードを使用します。

初期値 = クレードル自動ペアリング有効



クレードル自動ペアリング有効



クレードル自動ペアリング無効

8.3. Bluetooth®通信タイプ

スキャナは、以下の3つの通信タイプをサポートしています。通信タイプを変更するとLEDランプが緑色に点滅を開始し、正常に変更されると再びLEDランプが青点滅となります。

注 この設定はペアリング前に行ってください。

初期値 = BT キーボード



BLE キーボード



BT キーボード



BT SPP

スキャナの接続を受けるホストのBluetoothが以下のプロファイルをサポートしている必要があります。

通信タイプ	Bluetooth プロファイル	Bluetooth バージョン
BLE キーボード	HID over GATT	Bluetooth V4.2 以上
BT キーボード	HID	Bluetooth V2.1 以上
BT SPP	SPP	Bluetooth V2.1 以上

注 **BLE キーボード**は、Windows 8.1 以上、iOS 6 以上、Android 4.3 以上の OS でサポートされています。

注 **BT SPP**でWindowsプラットフォームへ接続する場合は、[8.6.BT SPP 自動接続](#) (41 ページ) を無効にしてからペアリングしてください。

注 iOS 機器 (iPhone、iPad など) は **BT SPP**での接続をサポートしていません。

8.4. ペアリング情報削除

スキャナに保存されているペアリング情報を削除し、再びペアリング可能な状態にします。これはクレードルによるペアリング、Bluetooth®によるペアリングの双方で機能します。

一時的に接続を切断したいだけの場合はスキャナの電源 OFF を行ってください。このバーコードを読み取った場合は、再ペアリングの作業が必要です。



ペアリング情報削除

8.5. 無線電波状態の確認

高レベルを選択すると、通信品質は向上しますが、通信距離は短くなります。このオプションは **BLE キーボード**で接続している場合のみ機能します。

初期値 = 標準レベル



標準レベル



高レベル

8.6. BT SPP 自動接続

Windows プラットフォームに接続する場合は**無効**に、それ以外のプラットフォームに接続する場合は**有効**にしてください。

初期値 = 有効



無効



有効

8.7. BT SPP ACK/NAK

データを受信するアプリが ACK/NAK に対応している場合は**有効**にしてください。COM2KEY は対応していないため、**無効**にしてください。

初期値 = 無効



無効



有効

9. インジケータ設定

9.1. ブザー音量

スキャナは、ブザー音量を次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = 音量「中」



音量「大」



音量「中」



音量「小」



ミュート

9.2. バイブレーター

バイブレーターを使用したい場合は、このオプションを**有効**に設定し、各インジケータ設定を**バイブレーター**または**ブザー+バイブレーター**に設定します。

初期値 = 有効



無効



有効

9.3. 読取成功インジケータ

読取り成功時のインジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

9.4. 無線接続インジケータ

無線通信の接続・切断時のインジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

9.5. システム設定インジケータ

システム設定を行った時のインジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

9.6. 警告・エラーインジケータ

警告およびエラー発生時のインジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値= ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

9.7. パワーオンインジケータ

電源オン時のインジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

9.8. パワーオフインジケータ

電源オフ時のインジケータおよび、[7.6.自動パワーオフ（省電力）](#)（37 ページ）前の警告インジケータを次の4つのオプションから選択することができます。

初期値 = ブザー



なし



ブザー



バイブレーター



ブザー+バイブレーター

10. 内蔵メモリ設定（バッチモード）

内蔵メモリに保存されるデータは2種類あり、それぞれ別の用途で使用されます。本項では以下の名称で使用されています。

- バッチデータ…7.5.オペレーションモード（36 ページ）が**バッチモード**の時に保存されるデータです。不揮発性メモリへ保存され、自動的なデータ削除は行われません。
- 一時データ……7.5.オペレーションモード（36 ページ）が**自動モード**のときに保存されるデータです。揮発性メモリへ保存され、データが送信されるか電源 OFF されることによって自動的に削除されます。本項掲載の削除バーコードを使用して送信前に手動で削除することもできます。

10.1. バッチデータ送信

無線通信を使用して内蔵メモリに保存したテキストデータをホストに送信します。



バッチデータ送信

10.2. 最後に保存されたデータを削除

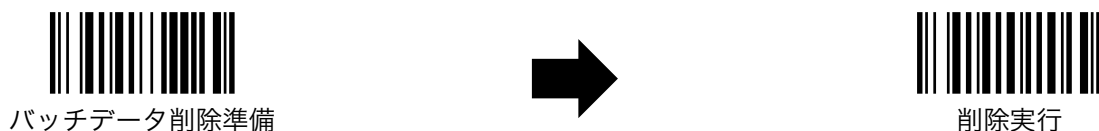
最後に保存されたデータだけを削除することができます。誤ったデータを読み取ってしまった場合などに使用することができます。



最後に保存されたデータを削除

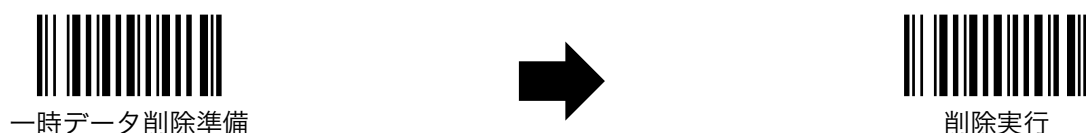
10.3. すべてのバッチデータを削除

保存されているすべての**バッチデータ**を削除することができます。以下のバーコードを、**バッチデータ削除準備**、**削除実行**の順に読み取ります。データ削除準備後に取り消したい場合は、スキャナの電源を切って下さい。



10.4. すべての一時データを削除

保存されているすべての**一時データ**を削除することができます。以下のバーコードを、**一時データ削除準備**、**削除実行**の順に読み取ります。一時データはデータ削除準備後に取り消すことはできませんのでご注意ください。



10.5. 内蔵メモリ容量の確認

バッチデータの保存スペースおよび一時データの保存スペースを確認することができます。バーコードを読み取ると、ホストへ容量の情報が送信されます。このオプションを使用するためには、事前にホストとペアリングを行っている必要があります。

送信される情報は次の通りです。

Total Buffer Space…一時データの全保存可能容量
Available…一時データの保存可能容量（フリースペース）

Total Drive Space…バッチデータの全保存可能容量
Available…バッチデータの保存可能容量（フリースペース）

注 参照の際、容量の単位が異なることに注意が必要です。



10.6. 電源オフ時の一時データ

この機能を**有効**にすると、電源オフ時に一時データが消去されなくなります。ただし電源オフ時のバッテリー消費量が上昇しますのでご注意ください。

初期値 = 無効



無効



有効

11. USB/BT/BLE キーボード設定

本項の設定は、クレードル接続時の USB キーボードインターフェース、Bluetooth®接続時の BT/BLE キーボード時に使用されます。

11.1. USB/BT/BLE キーボード文字間遅延

文字間に挿入される遅延時間を設定します。ホストでより遅いデータ転送が必要な場合に使用してください。

初期値 = 遅延無し



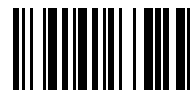
遅延無し



5 ミリ秒



10 ミリ秒



20 ミリ秒



50 ミリ秒



100 ミリ秒

11.2. USB/BT/BLE キーボードデータ間遅延

バーコードデータ間に挿入される遅延時間を設定します。

初期値 = 遅延無し



遅延無し



50 ミリ秒



100 ミリ秒



500 ミリ秒



1000 ミリ秒 (1 秒)

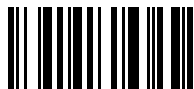


3000 ミリ秒 (3 秒)

11.3. 大文字/小文字の変換

読取ったバーコードデータを全て大文字または小文字で出力することができます。

初期値 = 自動トレース



自動トレース



すべて小文字に変換する



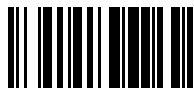
すべて大文字に変換する

11.4. キーボードレイアウト

ホストのキーボードレイアウトに合わせたカントリーコードを以下よりスキャンします。

記号など一部の文字が正常に表示されない場合（例えば「」→「(」や「_」→「=」など）、ほとんどは「日本語」、「ALT モード」または「部分的 ALT モード」のいずれかを選択することで解決します。

初期値 = 英語（北米）



英語（北米）



英語（英国）



デンマーク語

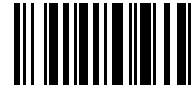


フランス語

キーボードレイアウト（続き）



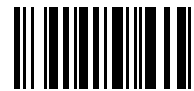
ドイツ語



イタリア語



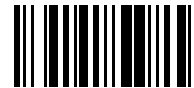
日本語



ノルウェー語



スペイン語



スウェーデン語



スイス語



ALT モード



部分的 ALT モード

12. RS232 設定

12.1. 標準設定値

パラメータ	値
ボーレート	9600 baud
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

注 現在、設定値の変更はサポートされていません。

13. データ送信設定

13.1. 送信データフォーマットについて

スキャナで読取ったバーコードデータは次のフォーマットでホストに送信されます。

{プリフィックス} {コード ID} [バーコードデータ] {サフィックス} [ターミネーター]

{ } — 初期設定では出力されません。出力するには設定が必要です。

[] — 初期設定で出力されます。

13.2. コード ID の送信

スキャナは、サポートしているバーコードシンボルに対して、あらかじめ決められたコード ID を持っています。

初期値 = 送信しない



送信しない



シンボルコード ID を送信



AIM コード ID を送信

13.2.1. シンボルコード ID 一覧表

シンボルコード ID	バーコードシンボル
A	UPC/EAN/JAN
B	Code 39、Code32
C	Codabar (NW-7)
D	Code 128、ISBT 128
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5 (ITF)
G	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
H	Code 11
J	MSI
K	GS1-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	Coupon Code
R	GS1 Databar 系
S	Matrix 2 of 5
T	UCC コンポジット、TLC 39
U	Chinese 2 of 5
V	Korean 3 of 5
X	ISSN、PDF417、Micro PDF417
z	Aztec、Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR コード、Micro QR コード
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	日本郵便カスタマバーコード
P06	UK Postal
P08	Netherlands KIX Code
P09	Australia Post
P0A	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail
P0B	UPU FICS Postal
P0H	Han Xin
P0X	Signature Capture

13.3. AIM コード ID 一覧表

AIM コード ID は 3 つの識別子 (jcm) を含んで表示されます。

- j** フラグ文字
- c** コード文字
- m** 修飾文字

13.3.1. AIM コード ID コード文字

コード文字	コードタイプ
A	Code 39、Code 39 フル ASCII、Code32
C	Code 128、ISBT 128、GS1-128、Coupon
d	Data Matrix
E	UPC/EAN/JAN
e	GS1 Databar 系
F	Codabar (NW-7)
G	Code 93
H	Code 11
h	Han Xin
I	Interleaved 2 of 5 (ITF)
L	PDF417、Micro PDF417
L2	TLC 39
M	MSI
Q	QR コード、Micro QR コード
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
U	Maxicode
z	Aztec、Aztec Rune
X	Code 39 Trioptic、Bookland EAN、Matrix 2 of 5、 Chinese 2 of 5、Korean 3 of 5、ISSN、 日本郵便カスタマバーコード、US Postnet、US Planet、UK Postal、 Australia Post、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/ Intelligent Mail、UPU FICS Postal、Signature Capture

13.3.2. AIM コード ID 修飾文字

修飾文字はオプション値の合計です。

オプション値	オプション
Code 39	
0	チェックデジットも、フル ASCII 変換もなし
1	チェックデジットを検査した
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
4	フル ASCII 変換を行った
5	フル ASCII 変換を行い、チェックデジットを検査した
7	フル ASCII 変換を行い、チェックデジット検査し送信しなかった
例：フル ASCII バーコードのチェックデジットを検査し送信しなかった場合の AIM コード ID は、JA7 となります。	
Trioptic Code 39	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：Trioptic Code 39 のコード ID は、JX0 となります。	
Code 128	
0	FNC1 コードが最初の文字の位置に無い
1	FNC1 コードが最初の文字の位置にある
2	FNC1 コードが 2 番目の文字の位置にある
例：Code128 または EAN128 バーコードの最初の文字の位置に FNC1 コードがある場合の AIM コード ID は、JC1 となります。	
Interleaved 2 of 5 (ITF)	
0	チェックデジットを検査していない
1	チェックデジットを検査した
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
例：Interleaved 2 of 5 のチェックデジットを検査しない場合の AIM コード ID は、JI0 となります。	
Codabar (NW-7)	
0	チェックデジットを検査していない
1	チェックデジットを検査した
例：Codabar のチェックデジットを検査しない場合の AIM コード ID は、JF0 となります。	
Code 93	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：Code93 バーコードのコード ID は、JG0 となります。	
MSI	
0	チェックデジットが送信されます
1	チェックデジットは送信されません
例：MSI のコード ID は、JMO となります。	

AIM コード ID 修飾文字 (続き)

オプション値	オプション
Discrete 2 of 5	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：Discrete 2 of 5 のコード ID は、J50 となります。	
UPC/JAN	
0	アドオンコードを含まない UPC-A、UPC-E および JAN-13
1	2 桁アドオンコードのみ
2	5 桁アドオンコードのみ
3	アドオンコードを含む UPC-A、UPC-E および JAN-13
4	JAN-8
例：UPC-A のコード ID は、JE0 となります。	
Bookland EAN	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：Bookland EAN のコード ID は、JX0 となります。	
ISSN	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：ISSN のコード ID は、JX0 となります。	
Code11	
0	1 つのチェックデジット
1	2 つのチェックデジット
3	チェックデジットを検査し送信しなかった
例：Code 11 のコード ID はJH0 となります。	
GS1 Databar 系	
0	オプションが設定されておらず、常に 0 を送信します
例：GS1 Databar のコード ID は、Je0 となります。	
合成コード	
	ネイティブモード
0	標準データパケット
1	エンコードされたシンボル区切り文字に続くデータを含むパケット
2	エスケープ文字に続くデータを含むパケット。データパケットは ECI プロトコルをサポートしません。
3	エスケープ文字に続くデータを含むパケット。データパケットは ECI プロトコルをサポートします。
GS1-128 エミュレーション	
1	データパケットは GS1-128 です (先頭にJJC1 がつく)

AIM コード ID 修飾文字 (続き)

オプション値	オプション
PDF417、Micro PDF417	
0	リーダーは 1994 年の PDF417 シンボル体系仕様で定義されたプロトコルに準拠するように設定されています。注：このオプションが送信されると、受信側は ECI が呼び出されたかどうか、またはデータバイト 92DEC が送信時に 2 倍になったかどうかを確実に判断できません。
1	リーダーは ECI プロトコルに従うように設定されています。すべてのデータ文字 92DEC は 2 倍になります。
2	リーダーは基本チャネル操作用に設定されています（エスケープ文字伝送プロトコルなし）。データ文字 92DEC は 2 倍になりません。注：デコーダがこのモードに設定されている場合、バッファされていないマクロシンボルおよびデコーダに ECI エスケープシーケンスの伝達を要求するシンボルは送信できません。
3	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 903-907、912、914、915 です。
4	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 908-909 です。
5	バーコードには GS1-128 記号が含まれており、最初のコードワードは 910-911 です。
例：PDF417 のコード ID は、JL0 となります。	
Data Matrix	
0	ECC 000 – ECC 140 (未サポート)
1	ECC 200
2	最初の位置または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
3	2 番目の位置または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
4	ECI プロトコルを実装した ECC 200
5	ECI プロトコルを実装しており、最初に位置または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
Maxicode	
0	モード 4 またはモード 5
1	モード 2 またはモード 3
2	ECI プロトコルを実装したモード 4 またはモード 5
3	セカンダリメッセージに ECI プロトコルを実装したモード 2 またはモード 3
QR Code	
0	モデル 1
1	ECI プロトコルを実装していないモデル 2、または MicroQR コード

AIM コード ID 修飾文字 (続き)

オプション値	オプション
QR Code (続き)	
2	ECI プロトコルを実装したモデル 2
3	ECI プロトコルを実装しておらず、最初の位置に FNC1 があるモデル 2
4	ECI プロトコルを実装しており、最初の位置に FNC1 があるモデル 2
5	ECI プロトコルを実装しておらず、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2
6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2
Aztec	
0	Aztec
C	Aztec Runes
HAN XIN	
0	一般的なデータ。特別な機能は設定されていません。送信データは AIM ECI プロトコルに準拠していません。
1	ECI プロトコルが有効。エンコードされた ECI モードが少なくとも 1 つあります。送信データは AIM ECI プロトコルに従う必要があります。

13.4. ターミネーター

以下の 5 つの定義済みの文字から選択します。接続方式によって送信される値が異なることに注意してください。クレードル接続方式の **USB キーボードインターフェース**、Bluetooth®接続の **BT キーボード**または **BLE キーボード**が選択されている場合はキーストロークとして、クレードル接続方式の **USB 仮想 COM インターフェース**または **RS232C インターフェース**、Bluetooth®接続の **BT SPP** が選択されている場合は ASCII コードとして送信されます。

定義済み文字	キーストローク	ASCII コード
なし	送信しません	送信しません
CR	Enter キー	0x1d
LF	未定義。設定は変更されません	0x1a
CR+LF	Enter → Ctrl+J の順に送信	0x1d, 0x1a
HT	Tab キー	0x09

初期値 = CR



なし



CR



LF



CR+LF



HT

13.5. プリフィックスとサフィックス

プリフィックスとサフィックスに、任意の制御文字・英数字・記号を設定することができます。

注 プリフィックス、サフィックスを追加で送信するためには、[13.6.送信データフォーマット](#)（63 ページ）を適切に設定する必要があります。



プリフィックス設定



サフィックス 1 設定



サフィックス 2 設定



キャンセル

サフィックス 1 を **Tab** に変更する場合は、次の手順で行います。

ステップ 1 : [22.ASCII 文字セット](#)（139 ページ）から **TAB** の **Prefix/Suffix 値**を確認します。

ステップ 2 : **サフィックス 1 設定**を読取ります。

ステップ 3 : [23.数字バーコード](#)（144 ページ）から **1、0、0、9**の順に読取ります。

ステップ 4 : [13.6.送信データフォーマット](#)（63 ページ）から<**データ**><**サフィックス 1**>を読み取ります。

13.6. 送信データフォーマット

スキャナから送信されるデータのフォーマットを設定することができます。プリフィックス/サフィックスの設定変更は [13.5.プリフィックスとサフィックス](#) (62 ページ) をご覧ください。

注 データは、読み取ったバーコードデータのことです。

注 各サフィックスの後に [13.4.ターミネーター](#) (61 ページ) が送信されます。

初期値 = データのみ



データのみ



<データ><サフィックス 1>



<データ><サフィックス 2>



<データ><サフィックス 1><サフィックス 2>



<プリフィックス><データ>



<プリフィックス><データ><サフィックス 1>



<プリフィックス><データ><サフィックス 2>



<プリフィックス><データ><サフィックス 1>
<サフィックス 2>

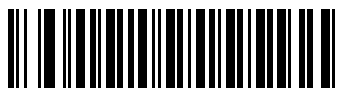
13.7. “読取なし”メッセージの送信

バーコードの読取り時、“読取なし”メッセージをホストへ送信するかどうかを設定することができます。

- 有効** — トリガーを解放するときにバーコードの読取りに成功していなかった場合は「NR」をホストへ送信します。
- 無効** — 「NR」を送信しません。



有効



無効

13.8. バーコード内の制御コードの送信

バーコードに含まれる非印字文字の制御コード（0x00～0x1F）を送信するかどうかを設定することができます。

- 部分的に送信する** — Back Space (0x08)、Tab (0x09)、Enter (0x0D)、Escape (0x1B) のみを送信します。シリアル通信時に一部の制御コードが送信されないことに注意してください。
- すべて送信する** — すべての制御コードを送信します。
- すべて送信しない** — すべての制御コードを送信しません。

初期値 = 部分的に送信する



部分的に送信する



すべて送信する



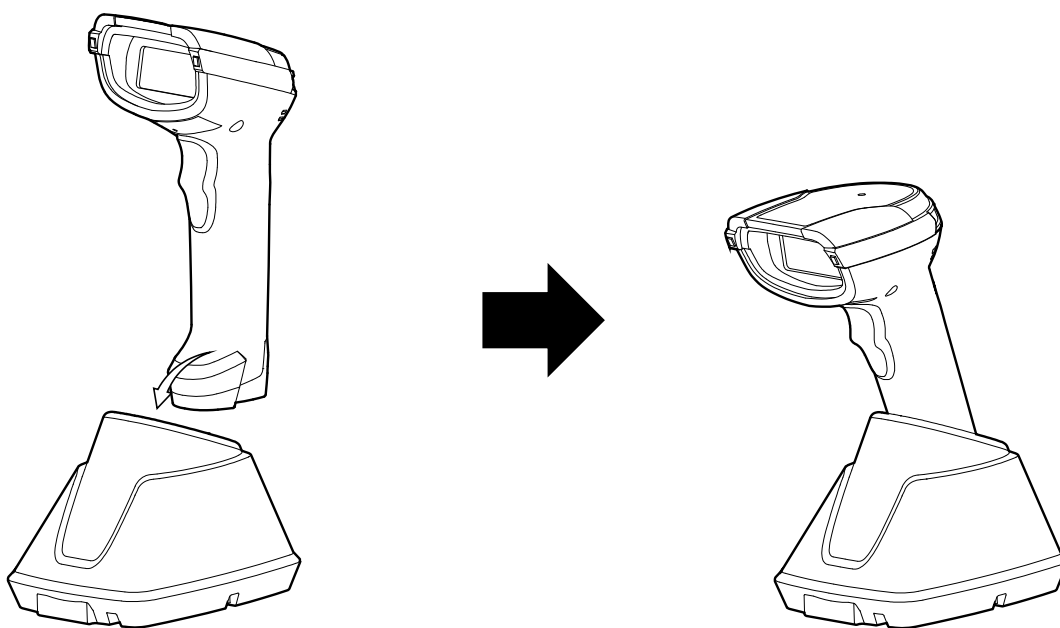
すべて送信しない

14. トリガー操作設定

14.1. 自動プレゼンテーション

自動プレゼンテーションとは、スキャナをクレードルにセットすることで、14.2.スキャンモード（66 ページ）のレベルと連続を自動で切り替える機能です。

クレードルにスキャナを設置すると、スキャナはクレードルを自動的に検知し、連続モードへ移行します。連続モードでは、スキャナはレーザーを照射し続け、トリガーボタンを操作することなく自動的に読取り動作を行います。ハンドフリーでバーコードの読取りが可能になります。



クレードルからスキャナを取り外すと、スキャナは即座にレベルに移行します。レベルでは、トリガーボタンの操作を行うことでバーコードの読取りを行います。

自動プレゼンテーションを使用したい場合は、以下の有効を読み取ってください。

初期値 = 無効



無効



有効

14.2. スキャンモード

スキャナは 5 種類のスキャンモードをサポートしています。

- レベル** — 標準のスキャンモードです。トリガーを押している間はレーザーが照射され、バーコードの読取りを行います。バーコードを読取るか、トリガーを解放するか、[14.6.デコードセッションタイムアウト](#)（68 ページ）に達するとレーザー照射は停止します。
- パルス** — トリガーを押すとレーザーが照射され、バーコードの読取りを行います。このモードでは、トリガーを解放してもレーザーの照射は停止せず、バーコードの読取りも停止しません。バーコードを読取るか、[14.6.デコードセッションタイムアウト](#)（68 ページ）に達するとレーザー照射は停止します。
- 連続** — トリガーを押さなくてもレーザーを照射し続け、バーコードの読取りを行います。このモードではトリガーを使用しません。
- 点滅** — トリガーを押さなくても、バーコードを検知して自動で読み取ります。バーコードを検知していないときは点滅状態になります。このモードでは [14.9.スキャン角度](#)（70 ページ）が「**広：47°**」に固定されます。このモードでは、読取り範囲が狭くなります。
- 拡張照準** — スキャナはバーコードを読み取るか、トリガーを解放するか、[14.6.デコードセッションタイムアウト](#)（68 ページ）に達するまで、照準モードと読取りモードを交互に繰り返します。[14.5.照準時間](#)（68 ページ）が設定されている場合、スキャナは照準モードで起動します。[14.10.拡張照準タイムアウト](#)（71 ページ）で設定した**読取りタイムアウト**のあいだ、スキャナは読取りモードのままになります。その時間が過ぎると [14.10.拡張照準タイムアウト](#)（71 ページ）で設定した**照準タイムアウト**のあいだ、スキャナは照準モードのままになります。このモードを使用する場合、[14.6.デコードセッションタイムアウト](#)（68 ページ）を最大の 9.9 秒に設定することをお勧めします。

初期値 = レベル



レベル



パルス



連続



点滅

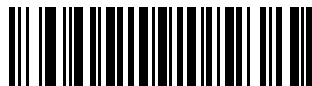


拡張照準

14.3. 連続読取りモード

この設定を**有効**にすると、トリガーを引いている間、連続でバーコードを読取り続けることができます。トリガーを放すと停止します。この設定は [14.2.スキャンモード](#) (66 ページ) が**レベル**以外では使用できません。

初期値 = 無効



無効

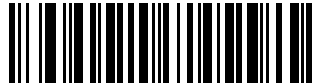


有効

14.4. ユニークバーコードの読取り

この設定を**有効**にすると、トリガーを引いている間は同一バーコードの読取りを行いません。この設定は [14.3.連続読取りモード](#) (67 ページ) が**有効**の場合に使用されます。

初期値 = 無効





無効



有効

14.5. 照準時間

この機能が設定されているとき、スキャナは、照準モード→読取りモードの順に起動します。照準モード時のレーザーはポインター状に表示されます。この機能は、[14.2.スキャンモード](#)（66 ページ）が**レベル**、**パルス**、**拡張照準**の場合に適用されます。

照準モード	読取りモード
	

照準モードで起動している時間を 00～99（0.0 秒～9.9 秒）の範囲で設定することができます。**00** は特別な値で照準モードの無効化を意味します。このパラメータは、[14.6.デコードセッションタイムアウト](#)（68 ページ）以上の値を設定することはできません。

初期値 = 00（照準モード無効）



照準時間

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。ステップ 2 の数字バーコードは必ず 2 桁必要です。

ステップ 1： **照準時間**を読取ります。

ステップ 2： [23.数字バーコード](#)（144 ページ）から「0」「5」の順に読取ります。

14.6. デコードセッションタイムアウト

スキャン試行中に読取り処理を継続する時間の最大値を設定することができます。設定範囲は 05～99（0.5 秒～9.9 秒）です。

初期値 = 30（3.0 秒）



デコードセッションタイムアウト

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。ステップ 2 の数字バーコードは必ず 2 桁必要です。

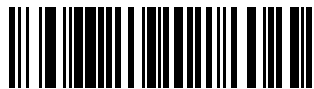
ステップ 1： **デコードセッションタイムアウト**を読取ります。

ステップ 2： [23.数字バーコード](#)（144 ページ）から「0」「5」の順に読取ります。

14.7. 同一バーコードの読取間隔

14.2.スキャンモード (66 ページ) が**連続**、**点滅**または 14.3.連続読取りモード (67 ページ) が**有効**の場合、バーコードの読取りが成功した後に同一バーコードの読取りが可能になるまでの時間を設定することができます。設定範囲は 00～99 (0.0 秒～9.9 秒) です。

初期値 = 10 (1.0 秒)



同一バーコードの読取間隔

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。ステップ 2 の数字バーコードは必ず 2 桁必要です。

ステップ 1 : 同一バーコードの読取間隔を読取ります。

ステップ 2 : 23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

14.8. 異なるバーコードの読取間隔

14.2.スキャンモード (66 ページ) が**連続**、**点滅**または 14.3.連続読取りモード (67 ページ) が**有効**の場合、バーコードの読取りが成功した後に異なるバーコードの読取りが可能になるまでの時間を設定することができます。設定範囲は 01～99 (0.1 秒～9.9 秒) です。

注 このパラメータは、14.7.同一バーコードの読取間隔 (69 ページ) や 14.6.デコードセッションタイムアウト (68 ページ) の値と同一またはそれ以上の値に設定することはできません。

初期値 = 02 (0.2 秒)



異なるバーコードの読取間隔

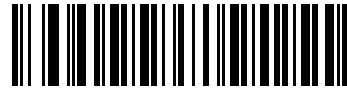
14.9. スキャン角度

レーザーのスキャン角度を変更することができます。角度を絞ればレーザーの照射幅が狭まります。

初期値 = 広：47°



狭：10°

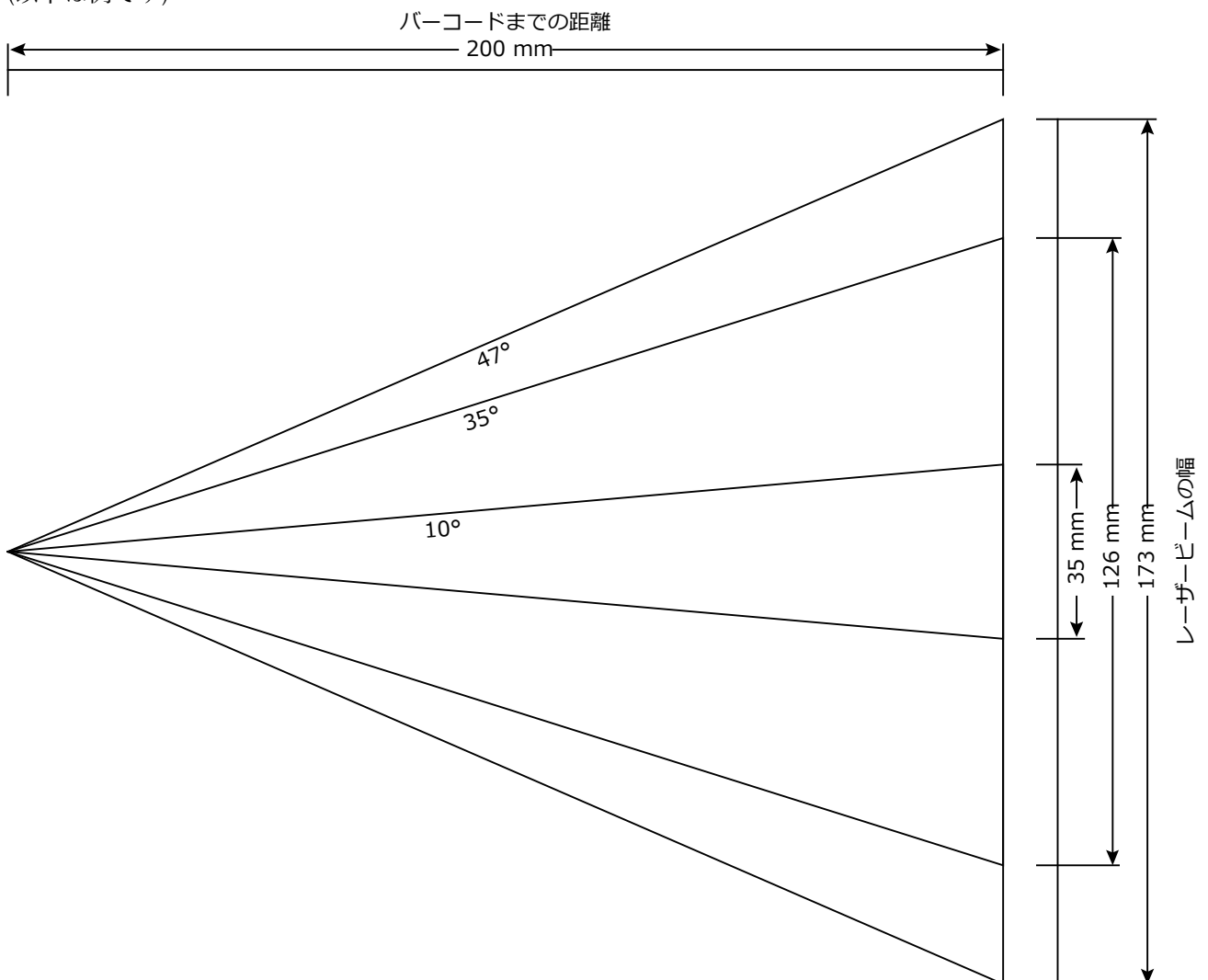


中：35°



広：47°

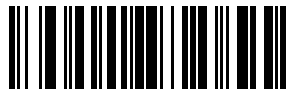
(以下は例です)



14.10. 拡張照準タイムアウト

14.2.スキャンモード (66 ページ) に**拡張照準**を選択した時、照準タイムアウト、または読取りタイムアウトを設定します。照準タイムアウトの設定可能範囲は 00～99 (0.0 秒～9.9 秒)、読取りタイムアウトの設定可能範囲は 05～99 (0.5 秒～9.9 秒) です。

初期値 = 照準タイムアウト：20 (2.0 秒)、読取りタイムアウト：10 (1.0 秒)



照準タイムアウト



読取りタイムアウト

「0.5 秒」に変更する場合は、次の手順で行います。ステップ 2 の数字バーコードは必ず 2 桁必要です。

ステップ 1： 照準タイムアウトまたは読取りタイムアウトを読取ります。

ステップ 2： 23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

14.11. iOS ソフトキーボード

iPhone や iPad などの iOS デバイスと BLE/BT キーボードで接続しているあいだ表示されなくなるソフトキーボード（画面上に表示される内蔵キーボード）の表示状態を切り替えることができます。ソフトキーボードの状態を切り替えるには、トリガーボタンを素早くダブルクリックしてください。

注 もともと画面キーボードが表示されない場所、アプリ内ではこの機能は使用できません。

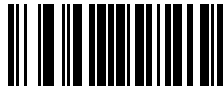


15. バーコード読取設定

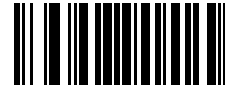
15.1. 全てのバーコードの読取り

全てのバーコードタイプの読取を有効化/無効化することができます。

小数のバーコードタイプの読取りのみを許可したい場合は、**全バーコードタイプ無効**に設定してから、許可したいバーコードタイプの読取を有効化してください。



全バーコードタイプ無効



全バーコードタイプ有効

15.2. UPC/JAN

15.2.1. UPC-A の読取り

UPC-A の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.2.2. UPC-E の読取り

UPC-E の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.2.3. UPC-E1 の読取り

UPC-E1 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.2.4. JAN-8 の読取り

JAN-8 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



15.2.5. JAN-13 の読取り

JAN-13 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



15.2.6. ISBN の読取り

ISBN の読取りを設定することができます。この設定を**有効**に変更すると、**978** または **979** から始まる JAN-13 を ISBN コードとして出力することができます。

初期値 = 無効



15.2.7. UPC/JAN アドオンコードの読取り

UPC/JAN コードに付加される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。

無視 — アドオンコードがあっても無視します。

必須 — アドオンコードを送信します。アドオンコードがない UPC/JAN は無視します。

自動 — アドオンコードを自動検出して送信します。アドオンコードが無い場合は、[15.2.9.アドオンコードの確認回数](#) (78 ページ) で設定されている回数だけアドオンコードがないことを確認して送信します。

次の設定のいずれかを選択した場合、スキャナは選択した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに対してアドオンコードを自動検出して送信します。アドオンコードが無い場合は、[15.2.9.アドオンコードの確認回数](#) (78 ページ) で設定されている回数だけアドオンコードがないことを確認して送信します。それ以外の数値列から始まる UPC/JAN コードはアドオンコードなしでただちに送信されます。

378/379 アドオンモード

978/979 アドオンモード

977 アドオンモード

414/419/434/439 アドオンモード

491 アドオンモード

スマートアドオンモード — 前述の 3 桁数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。

ユーザー定義モード 1 — ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[15.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (78 ページ) を使用して定義します。

ユーザー定義モード 1 および 2 — ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[15.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (78 ページ) を使用して定義します。

スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1 — 前述の 3 桁数値列または、ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[15.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (78 ページ) を使用して定義します。

スマートアドオンモード+ユーザー定義モード 1 および 2 — 前述の 3 桁数値列または、ユーザーが定義した 3 桁の数値列から始まる UPC/JAN コードに適用されます。[15.2.8.ユーザー定義アドオン](#) (78 ページ) を使用して定義します。

UPC/JAN アドオンコードの読取り（続き）

初期値 = 無効



無視



必須



自動



378/379 アドオンモード



978/979 アドオンモード



977 アドオンモード



414/419/434/439 アドオンモード



491 アドオンモード

UPC/JAN アドオンコードの読取り（続き）



スマートアドオンモード



ユーザー定義モード 1



ユーザー定義モード 1 および 2



スマートアドオンモード

+

ユーザー定義モード 1



スマートアドオンモード

+

ユーザー定義モード 1 および 2

15.2.8. ユーザー定義アドオン

15.2.7.UPC/JAN アドオンコードの読取り (75 ページ) でユーザー定義モードのいずれかを選択した場合は、以下のバーコードを使用して 3 桁の数値列を定義します。

初期値 = 000



ユーザー定義アドオン 1



ユーザー定義アドオン 2

「123」に変更する場合は、次の手順で行います。

ステップ 1 : ユーザー定義アドオン 1 を読取ります。

ステップ 2 : 23.数字バーコード (144 ページ) から「1」「2」「3」の順に読取ります。

15.2.9. アドオンコードの確認回数

アドオンコードの有無を確認する回数を設定することができます。アドオンコードの有無が混在した環境では回数を多めに設定することをお勧めいたします。設定範囲は 2~30 回です。

初期値 = 10



アドオンコードの確認回数

「5 回」に変更する場合は、次の手順で行います。ステップ 2 の数字バーコードは必ず 2 桁必要です。

ステップ 1 : アドオンコードの確認回数を読取ります。

ステップ 2 : 23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「5」の順に読取ります。

15.2.10. アドオンコードの AIM ID フォーマット

13.2.コード ID の送信 (54 ページ) が AIM コード ID を送信に設定されているとき、アドオンコード読取り時の AIM ID の出力フォーマットを設定することができます。

分離 — UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードのデータそれぞれに AIM ID を付加して送信します。

結合 — UPC/JAN コード+アドオンコードのデータに AIM ID を 1 つ付加して送信します。

分離転送 — UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードのデータそれぞれに AIM ID を付加して送信します。UPC/JAN コードのデータと、アドオンコードは改行で分割されて送信されます。

初期値 =結合



分離



結合

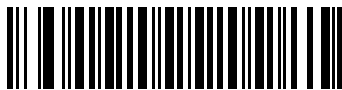


分離転送

15.2.11. UPC-A チェックデジットの送信

UPC-A のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

15.2.12. UPC-E チェックデジットの送信

UPC-E のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない

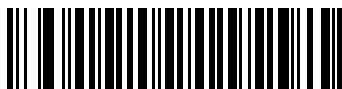


送信する

15.2.13. UPC-E1 チェックデジットの送信

UPC-E1 のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信する



送信しない



送信する

15.2.14. UPC-A プリアンブル

UPC-A のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 11 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 12 桁で送信されます。

カンントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カンントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 13 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カンントリーコード+システムキャラクタ

0 から始まる JAN コードを読み取った時に、先頭の 0 が消去された 12 桁で送信されている場合、**カンントリーコード+システムキャラクタ**に設定することで、先頭の 0 も含めた 13 桁で送信されるようになります。

15.2.15. UPC-E プリアンブル

UPC-E のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 7 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 8 桁で送信されます。

カントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 9 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カントリーコード+システムキャラクタ

15.2.16. UPC-E1 プリアンブル

UPC-E1 のプリアンブルの送信を設定することができます。

送信しない — プリアンブルは送信しません。チェックデジットを含めた 7 桁で送信されます。

システムキャラクタ — システムキャラクタを先頭に付加して送信します。チェックデジットを含めた 8 桁で送信されます。

カントリーコード+システムキャラクタ — カントリーコード+システムキャラクタを先頭に付加して送信します。カントリーコードは米国の場合は「0」です。チェックデジットを含めた 9 桁で送信されます。

初期値 = システムキャラクタ



送信しない



システムキャラクタ



カントリーコード+システムキャラクタ

15.2.17. UPC-E を UPC-A に拡張

UPC-E を UPC-A に拡張して出力することができます。**拡張する**を選択した場合、[15.2.11.UPC-A チェックデジットの送信](#) (80 ページ)、[15.2.14.UPC-A プリアンブル](#) (81 ページ) の設定の影響を受けます。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

15.2.18. UPC-E1 を UPC-A に拡張

UPC-E を UPC-A に拡張して出力することができます。**拡張する**を選択した場合、[15.2.11.UPC-A チェックデジットの送信](#) (80 ページ)、[15.2.14.UPC-A プリアンブル](#) (81 ページ) の設定の影響を受けます。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

15.2.19. JAN-8 を JAN-13 に拡張

拡張するを選択した場合、JAN-13 と互換性を持たせるように、JAN-8 に 5 つの「0」を追加して出力します。

初期値 = 拡張しない



拡張しない



拡張する

15.2.20. ISBN の出力フォーマット

15.2.6.ISBN の読取り (74 ページ) が有効の場合、出力フォーマットを以下より選択します。

ISBN-10 — 978 から始まる JAN-13 を旧規格の 10 桁コードとして出力します。このフォーマットでは 979 から始まるコードは ISBN として処理されません。

ISBN-13 — 978 または 979 から始まる JAN-13 を現行規格の 13 桁コードとして出力します。

初期値 = ISBN-10



ISBN-10

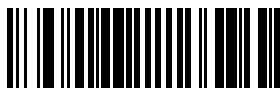


ISBN-13

15.2.21. UCC クーポン拡張コード

UCC クーポン拡張コードの読取りを設定することができます。この設定を有効にすると、5 で始まる UPC-A、99 で始まる JAN-13/UPC-A/GSI-128 をクーポンコードとして出力することができます。すべてのクーポンタイプをサポートするには、UPC-A/JAN-13/GSI-128 の読取りを有効にする必要があります。

初期値 = 無効



無効



有効

15.2.22. クーポンフォーマット

サポートする UCC クーポン拡張コードのフォーマットを選択することができます。

旧クーポン — UPC-A/GS1-128 と JAN-13/GS-128 のクーポンコードをサポートします。

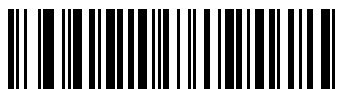
新クーポン — UPC-A/GS1-Databar と JAN-13/GS1-Databar のクーポンコードをサポートします。

新旧クーポン自動識別 — 新旧両方のクーポンコードをサポートします。

初期値 = 新クーポン



旧クーポン



新クーポン



新旧クーポン自動識別

15.2.23. ISSN の読取り

ISSN の読取りを設定することができます。この設定を**有効**にすると、**977** から始まる JAN-13 を 8 桁の ISSN コードとして出力することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.3. Code128

15.3.1. Code128 の読取り

Code128 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.3.2. Code128 読取り桁数

Code128 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code128 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code128 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code128 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する： **1 つの固定桁数** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する： **2 つの固定桁数** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する： **範囲指定** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 任意桁数



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

15.3.3. GS1-128 の読取り

GS1-128 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効

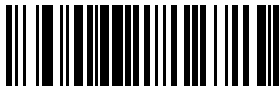


有効

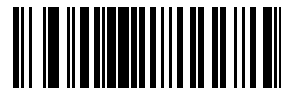
15.3.4. ISBT 128 の読取り

ISBT 128 の読み取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.3.5. ISBT 連結

2つのペアとなる ISBT コードを連結して送信することができます。

ISBT 連結有効 – 必ず2つのペアとなる ISBT コードが必要です。単独の ISBT コードを読取ることはできません。

ISBT 連結無効 – ISBT 連結を行いません。

ISBT 連結自動 – 2つのペアとなる ISBT コードは、連結して送信します。単独の ISBT コードは [15.3.7.ISBT 連結冗長性](#) (90 ページ) で設定されている回数チェックしてから送信します。

初期値 = ISBT 連結無効



ISBT 連結無効



ISBT 連結有効



ISBT 連結自動

15.3.6. ISBT テーブルチェック

ISBT の仕様には、一般的にペアとして使用されるいくつかのリストのテーブルが含まれています。[15.3.5.ISBT 連結](#) (89 ページ) を**有効**に変更する場合は、この設定を**チェックする**に変更し、ISBT の仕様に含まれるテーブルに存在するペアのみを連結して送信するようにしてください。

初期値 = チェックする



チェックしない



チェックする

15.3.7. ISBT 連結冗長性

[15.3.5.ISBT 連結](#) (89 ページ) を **ISBT 連結自動** に設定している場合は、単独の ISBT コードかどうかをチェックする回数をこの設定で行います。設定には、以下のバーコードを読んだあと、2 つの [23.数字バーコード](#) (144 ページ) を使用します。希望の値が「5」のように 2 桁に満たない場合は、「05」のようにゼロで先頭を埋めてください。設定可能な範囲は 2～20 です。

初期値 = 10



ISBT 連結冗長性

15.3.8. Code128 セキュリティレベル

Code128 は、[15.3.2.Code128 読取り桁数](#) (87 ページ) が**任意桁数**に設定されている場合、誤読に対して脆弱です。スキャナは誤読に対して以下の 4 つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、**セキュリティレベル 1** でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — **セキュリティレベル 2** でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3** を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、スキャナの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = Code128 セキュリティレベル 1



Code128 セキュリティレベル 0



Code128 セキュリティレベル 1



Code128 セキュリティレベル 2



Code128 セキュリティレベル 3

15.4. Code39

15.4.1. Code39 の読取り

Code39 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.4.2. Trioptic Code 39 の読取り

Trioptic Code39 の読取りを設定することができます。この設定を**有効**にすると、[15.4.8.Code39 読取りフォーマット](#)（95 ページ）のフル ASCII フォーマットは使用できません。

初期値 = 無効



無効



有効

15.4.3. Code39 を Code32 に変換

Code32 は、イタリアの薬局業界によって使用される Code39 の一種です。**有効**をスキャンすることで、Code39 を Code32 に変換できます。

注 この機能を使用する場合、Code39 の読み取りは**有効**である必要があります。

初期値 = 無効



無効



有効

15.4.4. Code32 プリフィックス

この機能を**有効**にすると、すべての Code32 バーコードの先頭に“A”を追加することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.4.5. Code39 読取り桁数

Code39 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code39 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code39 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code39 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (2 文字～55 文字)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (2～55)



任意桁数

15.4.6. Code39 チェックデジットの検査

Code39 のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**設定に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。

初期値 = 検査しない



検査しない



検査する

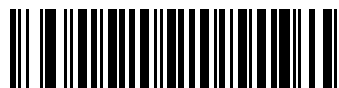
15.4.7. Code39 チェックデジットの送信

Code39 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [15.4.6.Code39 チェックデジットの検査](#) (95 ページ) を**検査する**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない

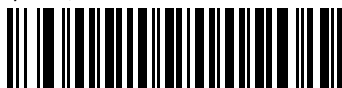


送信する

15.4.8. Code39 読取りフォーマット

Code39 の読取りフォーマットを設定することができます。フル ASCII フォーマットは、2 つの文字の組み合わせで ASCII キャラクタを表現する特別なフォーマットです。

初期値 = 標準フォーマット



標準フォーマット



フル ASCII フォーマット

15.4.9. Code39 セキュリティレベル

スキャナは誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1 — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、**セキュリティレベル 1**でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — **セキュリティレベル 2**でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3**を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

初期値 = Code39 セキュリティレベル 1



Code39 セキュリティレベル 0



Code39 セキュリティレベル 1



Code39 セキュリティレベル 2



Code39 セキュリティレベル 3

15.5. Code93

15.5.1. Code93 の読取り

Code93 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.5.2. Code93 読取り桁数

Code93 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code93 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code93 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code93 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (4 文字～55 文字)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (4～55)



任意桁数

15.6. Code11

15.6.1. Code11 の読取り

Code11 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.6.2. Code11 読取り桁数

Code11 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Code11 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Code11 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Code11 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：1 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：2 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：範囲指定→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (4 文字～55 文字)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (4～55)



任意桁数

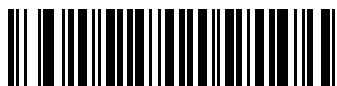
15.6.3. Code11 チェックデジットの検査

この機能により、スキャナは Code 11 のチェックデジットを検査して、データが完全かどうかを確認できます。次のいずれかのバーコードをスキャンして、**チェックデジットの数**を指定するか、この機能を**無効**にします。

初期値 = 無効



無効



1つのチェックデジット



2つのチェックデジット

15.6.4. Code11 チェックデジットの送信

Code11 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [15.6.3.Code11 チェックデジットの検査](#) (99 ページ) を **1つのチェックデジット**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

15.7. Interleaved 2 of 5 (ITF)

15.7.1. ITF の読取り

ITF の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.7.2. ITF 読取り桁数

ITF の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の ITF のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の ITF のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の ITF のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する：**1 つの固定桁数**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：**2 つの固定桁数**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：**範囲指定**→[23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (14 文字)



1 つの固定桁数 (14)



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

15.7.3. ITF チェックデジットの検査

ITF のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。チェックデジットの種類が不明の場合は、まず**検査する (USS チェックデジット)**でお試してください。

初期値 = 検査しない



検査しない



検査する (USS チェックデジット)



検査する (OPCC チェックデジット)

15.7.4. ITF チェックデジットの送信

ITF のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [15.7.3.ITF チェックデジットの検査](#) (101 ページ) を**検査する**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

15.7.5. ITF を JAN13 に変換する

14桁の ITF を 13桁の JAN コードに変換して出力することができます。正しく変換を行うためには、コードの先頭に 0 と、正しい JAN13 用のチェックデジットが必要です。

初期値 = 変換しない



変換しない



変換する

15.8. Discrete 2 of 5

15.8.1. Discrete 2 of 5 の読取り

Discrete 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.8.2. Discrete 2 of 5 読取り桁数

Discrete 2 of 5 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

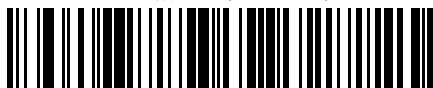
2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Discrete 2 of 5 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する：1 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：2 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：範囲指定→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (12 文字)



1 つの固定桁数 (12)



2 つの固定桁数



範囲指定



任意桁数

15.9. Codabar (NW-7)

15.9.1. NW-7 の読取り

NW-7 の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.9.2. NW-7 読取り桁数

NW-7 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の NW-7 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の NW-7 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の NW-7 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する：1 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する：2 つの固定桁数→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する：範囲指定→23.数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 範囲指定 (5 文字～55 文字)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲指定 (5～55)



任意桁数

15.9.3. NW-7 CLSI 編集

14 文字の NW-7 を CLSI 形式で出力することができます。このオプションを**有効**にすると、スタート・ストップキャラクタを取り除き、1 文字目、5 文字目、10 文字目の後にスペースを挿入します。

注 スタート・ストップキャラクタは 14 文字には含まれません。

初期値 = 無効



無効



有効

15.9.4. NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信

スタート・ストップキャラクタとは、NW-7 の始まりと終わりに配置される文字のことです。通常 **A**、**B**、**C**、**D** のアルファベットが配置されます。

初期値 = 送信する



送信する



送信しない

15.9.5. NW-7 スタート・ストップキャラクタの大文字小文字

NW-7 のスタート・ストップキャラクタの大文字・小文字変換を設定することができます。

初期値 = 大文字



大文字



小文字

15.10. MSI

15.10.1. MSI の読取り

MSI の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.10.2. MSI 読取り桁数

MSI の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の MSI のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の MSI のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の MSI のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。

- ・ 6 桁で固定する： **1 つの固定桁数** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する： **2 つの固定桁数** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する： **範囲桁数** → 23. 数字バーコード (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

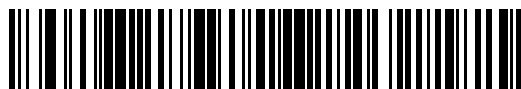
初期値 = 範囲指定 (4 文字～55 文字)



1 つの固定桁数



2 つの固定桁数



範囲桁数 (4～55)



任意桁数

15.10.3. MSI チェックデジットの検査

MSI コードには1桁のチェックデジットが常に必要です。2桁目のチェックデジットはオプションです。**2桁のチェックデジット**を使用する場合は、[15.10.5.MSI チェックデジットのアルゴリズム](#) (107 ページ) も設定してください。

初期値 = 1 桁のチェックデジット



1 桁のチェックデジット

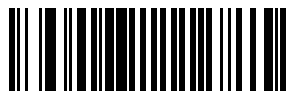


2 桁のチェックデジット

15.10.4. MSI チェックデジットの送信

MSI のチェックデジットの送信を設定することができます。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

15.10.5. MSI チェックデジットのアルゴリズム

2桁目のチェックデジットを検査するアルゴリズムは2つあります。以下のいずれかのバーコードをスキャンしてアルゴリズムを設定することができます。

初期値 = MOD 10/MOD 10



MOD 11/MOD 10



MOD 10/MOD10

15.11. Chinese 2 of 5

15.11.1. Chinese 2 of 5 の読取り

Chinese 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.12. Korean 3 of 5

15.12.1. Korean 3 of 5 の読取り

Korean 3 of 5 の読取りを設定することができます。

注 Korean 3 of 5 の読取り桁数は「6 桁」に固定されています。

初期値 = 無効



無効



有効

15.13. Matrix 2 of 5

15.13.1. Matrix 2 of 5 の読取り

Matrix 2 of 5 の読取りを設定することができます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.13.2. Matrix 2 of 5 読取り桁数

Matrix 2 of 5 の読取り可能な桁数を以下の 4 種類から設定することができます。

1 つの固定桁数 — 設定した桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

2 つの固定桁数 — 設定した 2 つの桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

範囲指定 — 指定された範囲内の桁数の Matrix 2 of 5 のみを読み取ります。

任意桁数 — スキャナの機能が許す範囲で、桁数の指定を行わず読み取ります。任意桁数の使用は、誤読の発生する可能性を高めますのでご注意ください。

- ・ 6 桁で固定する： **1 つの固定桁数** → [23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「6」
- ・ 8 桁と 16 桁で固定する： **2 つの固定桁数** → [23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「8」「1」「6」
- ・ 4 桁～12 桁の範囲で設定する： **範囲指定** → [23.数字バーコード](#) (144 ページ) から「0」「4」「1」「2」

初期値 = 1 つの固定桁数 (14 文字)



1 つの固定桁数 (14)



2 つの固定桁数



範囲桁数



任意桁数

15.13.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査

Matrix 2 of 5 のチェックデジットの検査を設定することができます。**検査する**設定に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。

初期値 = 検査しない



検査しない



検査する

15.13.4. Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信

Matrix 2 of 5 のチェックデジットの送信を設定することができます。この設定を変更するには [15.13.3. Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査](#) (110 ページ) を**検査する**に設定しておく必要があります。

初期値 = 送信しない



送信しない



送信する

15.14. GS1 Databar

15.14.1. GS1 Databar Omnidirectional の読取り

GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 Databar Stacked の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効

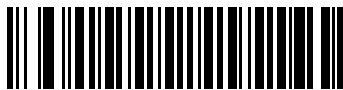


有効

15.14.2. GS1 Databar Limited の読取り

GS1 Databar Limited の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

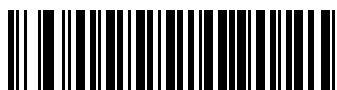
15.14.3. GS1 Databar Expanded の読取り

GS1 Databar Expanded、GS1 Databar Expanded Stacked の読取りを設定することができます。

初期値 = 有効



無効



有効

15.14.4. GS1 Databar を UPC/JAN に変換

GS1 Databar または GS1 Databar Limited を UPC/JAN に変換して送信します。この設定を**有効**にすると、先頭の「010」を削除して 13 桁の JAN-13 として送信されます。2 個以上 6 個未満の「0」から開始される場合は、「0100」を削除して 12 桁の UPC-A として送信されます。

初期値 = 無効



無効



有効

15.14.5. GS1 Databar Limited マージンチェックレベル

GS1 Databar Limited に対して 4 種類の読取精度レベルを設定することができます。レベルが高いほど読取精度も高くなりますが、バーコードをスキャンするときの読取速度が低下します。

マージンチェックレベル 1 — バーコードにクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）は必要ありません。以前の GS1 規格に準拠しています。ただし「7」と「9」で始まる UPC コードを読取った時に GS1 Databar Limited として読取る可能性があります。

マージンチェックレベル 2 — 自動的にバーコードの危険性を検知します。UPC コードを読取った時に GS1 Databar Limited として読取る可能性があります。誤った読取りを行なう場合は、レベルを上げるか下げてください。

マージンチェックレベル 3 — 2011 年以降の新しい GS1 規格を読取るのに適しています。読取るバーコードの末尾に 5 モジュール分のクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）が必要です。

マージンチェックレベル 4 — さらに厳しいバーコードの読取りに適しています。読取るバーコードの先頭と末尾に、それぞれ 5 モジュール分のクワイエットゾーン（バーコード左右の空白）が必要です。

初期値 = マージンチェックレベル 3



マージンチェックレベル 1



マージンチェックレベル 2



マージンチェックレベル 3



マージンチェックレベル 4

16. バーコードオプション

16.1. 反転 1 次元バーコード

白と黒が反転している 1 次元バーコードの読取りを設定することができます。

標準のみ — 標準の 1 次元バーコードのみ読取ることができます。

反転のみ — 反転の 1 次元バーコードのみ読取ることができます。

自動検出 — 標準と反転の両方の 1 次元バーコードを読取ることができます。

初期値 = 標準のみ



標準のみ



反転のみ



自動検出

16.2. 2 値バーコードのセキュリティレベル

スキャナは特定バーコードの誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 1* — 次のバーコードを読取る際に2度読みして一致してから出力します。

- 8桁以下の Codabar (NW-7)
- 4桁以下の MSI
- 8桁以下の Discrete 2 of 5
- 8桁以下の Interleaved 2 of 5 (ITF)

セキュリティレベル 2 — すべての2値バーコードを読取る際に2度読みして一致してから出力します。

セキュリティレベル 3 — 次のバーコードを読取る際には3度読みして一致してから出力します。それ以外のバーコードは2度読みして一致してから出力します。

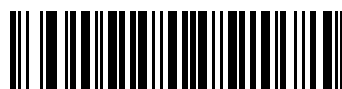
- 8桁以下の Codabar (NW-7)
- 4桁以下の MSI
- 8桁以下の Discrete 2 of 5
- 8桁以下の Interleaved 2 of 5 (ITF)

セキュリティレベル 4 — すべての2値バーコードを読取る際に3度読みして一致してから出力します。

初期値 = 2 値バーコード セキュリティレベル 1



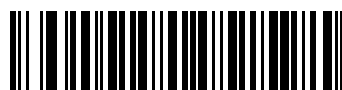
2 値バーコード セキュリティレベル 1



2 値バーコード セキュリティレベル 2



2 値バーコード セキュリティレベル 3



2 値バーコード セキュリティレベル 4

16.3. 4 値バーコードのセキュリティレベル

スキャナは特定バーコード（Code128、Code93、JAN/EAN/UPC）の誤読に対して以下の4つのセキュリティレベルを提供します。セキュリティレベルと読み取り易さは相反していて、セキュリティレベルを上げると誤読に対して強固になりますが、バーコードの読み取り易さは低下します。必要なセキュリティレベルを設定してください。

セキュリティレベル 0 — この設定は、スキャナの設定を最大の状態で使用でき、ほとんどの「規格内」バーコードを読み取るために十分な精度を持っています。

セキュリティレベル 1* — このオプションは、妥当な読み取り精度を維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。

セキュリティレベル 2 — このオプションは、**セキュリティレベル 1**でも誤読してしまうような、品質の悪いバーコードの読み取るために使用します。

セキュリティレベル 3 — **セキュリティレベル 2**でも誤読が発生する場合に、スキャナの持つ機能の範囲で最大限の正確性を提供します。

注 **セキュリティレベル 3**を選択することは、仕様外のバーコードを誤読することに対する極端な措置であり、エンジンの読み取り能力を著しく損ないます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることを強くお勧めいたします。

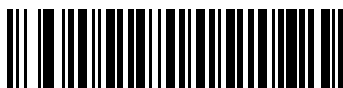
初期値 = 4 値バーコード セキュリティレベル 1



4 値バーコード セキュリティレベル 0



4 値バーコード セキュリティレベル 1



4 値バーコード セキュリティレベル 2



4 値バーコード セキュリティレベル 3

16.4. 双方向冗長化

この機能は、16.2.2 値バーコードのセキュリティレベル（115 ページ）がレベル 2 以上に設定されている場合に適用されます。この機能が有効の場合、スキャナは双方向（順方向と逆方向）からの読取りが正常に行われなければデータ出力を行いません

初期値 = 無効



無効



有効

16.5. 文字間ギャップサイズ

Code 39 および NW-7 は、一般的に小さな文字間ギャップを持っていますが、これは通常とても小さいものです。バーコード印刷技術によっては、このギャップが許容される最大サイズよりも大きくなり、読み取りができなくなる場合があります。この問題が発生した場合、**大きい文字間ギャップ**を設定することで、このような規格外のバーコードを読取ることができる可能性があります。

初期値 = 通常の文字間ギャップ



通常の文字間ギャップ



大きい文字間ギャップ

17. 標準設定値一覧

パラメータ	標準値	掲載ページ
システム設定		
設定バーコードの読み取り	有効	35
設定値の初期化	N/A	35
オペレーションモード	自動モード	36
自動パワーオフ（省電力）	15 分	37
通信設定		
クレードルの自動ペアリング設定	有効	38
Bluetooth®通信タイプ	BT キーボード	39
無線電波状態の確認	標準レベル	40
BT SPP 自動接続	有効	41
BT SPP ACK/NAK	無効	41
インジケータ設定		
ブザー音量	音量「中」	42
バイブレーター	有効	42
読取成功インジケータ	ブザー	43
無線接続インジケータ	ブザー	43
システム設定インジケータ	ブザー	44
警告・エラーインジケータ	ブザー	44
パワーオンインジケータ	ブザー	45
パワーオフインジケータ	ブザー	45
内蔵メモリ設定（バッチモード）		
バッチデータ送信	N/A	46
最後に保存されたデータを削除	N/A	46
すべてのバッチデータを削除	N/A	47
すべての一時データを削除	N/A	47
内蔵メモリ容量の確認	N/A	47
電源オフ時の一時データ	無効	48
USB/BT/BLE キーボード設定		
USB/BT/BLE キーボード文字間遅延	遅延無し	49
USB/BT/BLE キーボードデータ間遅延	遅延無し	50
大文字/小文字の変換	自動トレース	51
キーボードレイアウト	英語（北米）	51

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
RS232 設定		
標準設定値	9600,8,なし,1,なし	53
データ送信設定		
コード ID の送信	送信しない	54
ターミネーター	CR	61
プリフィックスとサフィックス	未定義	62
送信データフォーマット	データのみ	63
“読取なし”メッセージの送信	無効	64
バーコード内の制御コードの送信	部分的に送信する	64
トリガー操作設定		
自動プレゼンテーション	無効	65
スキャンモード	レベル	66
連続読取りモード	無効	67
ユニークバーコードの読取り	無効	67
照準時間	0.0 秒	68
デコードセッションタイムアウト	3.0 秒	68
同一バーコードの読取間隔	1.0 秒	69
異なるバーコードの読取間隔	0.2 秒	69
スキャン角度	広：47°	70
拡張照準タイムアウト	照準タイムアウト：2.0 秒 読取りタイムアウト：1.0 秒	71
iOS ソフトキーボード	N/A	71
バーコード読取設定		
全てのバーコードの読取り	N/A	72
UPC/JAN		
UPC-A の読取り	有効	73
UPC-E の読取り	有効	73
UPC-E1 の読取り	無効	73
JAN-8 の読取り	有効	74
JAN-13 の読取り	有効	74
ISBN の読取り	無効	74
UPC/JAN アドオンコードの読取り	無視	75
ユーザー定義アドオン 1	000	78

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
UPC/JAN（続き）		
ユーザー定義アドオン 2	000	78
アドオンコードの確認回数	10	78
アドオンコードの AIM ID フォーマット	結合	79
UPC-A チェックデジットの送信	送信する	80
UPC-E チェックデジットの送信	送信する	80
UPC-E1 チェックデジットの送信	送信する	80
UPC-A プリアンブル	システムキャラクタ	81
UPC-E プリアンブル	システムキャラクタ	82
UPC-E1 プリアンブル	システムキャラクタ	83
UPC-E を UPC-A に拡張	拡張しない	84
UPC-E1 を UPC-A に拡張	拡張しない	84
JAN-8 を JAN-13 に拡張	拡張しない	84
ISBN の出力フォーマット	ISBN-10	85
UCC クーポン拡張コード	無効	85
クーポンフォーマット	新クーポン	86
ISSN の読取り	有効	86
Code128		
Code128 の読取り	有効	87
Code128 読取り桁数	任意桁数	87
GS1-128 の読取り	有効	88
ISBT 128 の読取り	有効	88
ISBT 連結	ISBT 連結無効	89
ISBT テーブルチェック	チェックする	89
ISBT 連結冗長性	10	90
Code128 セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	91
Code39		
Code39 の読取り	有効	92
Trioptic Code 39 の読取り	無効	92
Code39 を Code32 に変換	無効	93
Code32 プリフィックス	無効	93
Code39 読取り桁数	範囲指定（2 桁～55 桁）	94
Code39 チェックデジットの検査	検査しない	95

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
Code39（続き）		
Code39 チェックデジットの送信	送信しない	95
Code39 読取りフォーマット	標準フォーマット	95
Code39 セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	96
Code93		
Code93 の読取り	無効	97
Code93 読取り桁数	範囲指定（4 桁～55 桁）	97
Code11		
Code11 の読取り	無効	98
Code11 読取り桁数	範囲指定（4 桁～55 桁）	98
Code11 チェックデジットの検査	無効	99
Code11 チェックデジットの送信	送信しない	99
Interleaved 2 of 5 (ITF)		
ITF の読取り	無効	100
ITF 読取り桁数	1 つの固定桁数（14 桁）	100
ITF チェックデジットの検査	検査しない	101
ITF チェックデジットの送信	送信しない	101
ITF を JAN13 に変換する	変換しない	102
Discrete 2 of 5		
Discrete 2 of 5 の読取り	無効	103
Discrete 2 of 5 読取り桁数	1 つの固定桁数（12 桁）	103
Codabar (NW-7)		
NW-7 の読取り	有効	104
NW-7 読取り桁数	範囲指定（5 桁～55 桁）	104
NW-7 CLSI 編集	無効	105
NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信	送信する	105
NW-7 スタート・ストップキャラクタの大文字小文字	大文字	105
MSI		
MSI の読取り	無効	106
MSI 読取り桁数	範囲指定（4 桁～55 桁）	106
MSI チェックデジットの検査	1 桁のチェックデジット	107
MSI チェックデジットの送信	送信しない	107
MSI チェックデジットのアルゴリズム	MOD 10/MOD 10	107

標準設定値一覧（続き）

パラメータ	標準値	掲載ページ
Chinese 2 of 5		
Chinese 2 of 5 の読取り	無効	108
Korean 3 of 5		
Korean 3 of 5 の読取り	無効	108
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5 の読取り	無効	109
Matrix 2 of 5 読取り桁数	1つの固定桁数（14桁）	109
Matrix 2 of 5 チェックデジットの検査	検査しない	110
Matrix 2 of 5 チェックデジットの送信	送信しない	110
GS1 Databar		
GS1 Databar Omnidirectional の読取り	有効	111
GS1 Databar Limited の読取り	有効	111
GS1 Databar Expanded の読取り	有効	111
GS1 Databar を UPC/JAN に変換	無効	112
GS1 Databar Limited マージンチェックレベル	チェックレベル 3	113
バーコードオプション		
反転 1 次元バーコード	標準のみ	114
2 値バーコードのセキュリティレベル	セキュリティレベル 1	115
4 値バーコードのセキュリティレベル	セキュリティレベル 1	116
双方向冗長化	無効	117
文字間ギャップサイズ	通常の文字間ギャップ	117

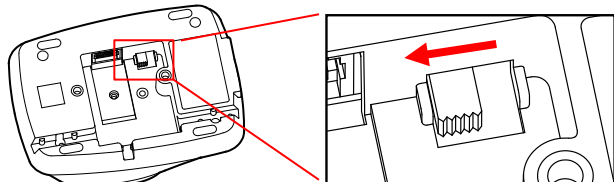
18. クレードルを使用した接続方法

18.1. USB キーボードインターフェース

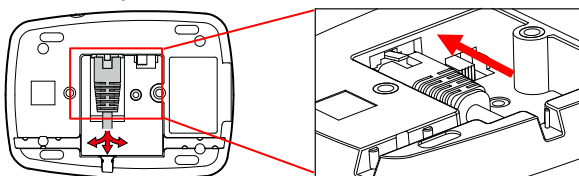
本機の標準の接続方法です。スキャナは、読み取ったバーコードデータをクレードルにワイヤレスで送信し、クレードルは受信したバーコードデータをあたかもキーボードで入力したように USB ケーブルでホストへ送信します。ホストでは、Excel や Word などのキーボードによる文字の入力が可能なソフトウェアが待機状態で実行されている必要があります。

1. クレードルのインターフェーススイッチを『左』へ切り替えます。

注 この操作は、必ずすべてのケーブルを取り外した状態で行ってください。



2. USB インターフェースケーブルをクレードルのインターフェースポートへ接続し、ケーブルをクレードルのガイドスロットに沿ってはめ込みます。



3. 専用の USB インターフェースケーブルを使用してホスト PC の USB ポートに接続します。はじめてホスト PC に接続した場合、ドライバのインストールに時間がかかる場合があります。クレードルが使用可能になるまで、クレードルの LED ランプは赤色に点灯し続けます。使用可能になると、次のようにランプが点灯します。

緑色の点灯：次の手順 4 を行います。

青色の点滅：次の手順はスキップし手順 5 を行います。(手順 4 を行うこともできます)

4. クレードルの LED ランプが消えるまで、2 秒間クレードルボタンを押し続け、その後放します。クレードルの LED ランプが緑色の点滅に変化し、続いて青色の点滅に変化します。

5. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。

6. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

7. スキャナをクレードルに置くとペアリングが自動的に開始されます。
8. ペアリングが完了すると、クレードルおよびスキャナ双方の LED インジケータが青色に点灯し使用可能になります。

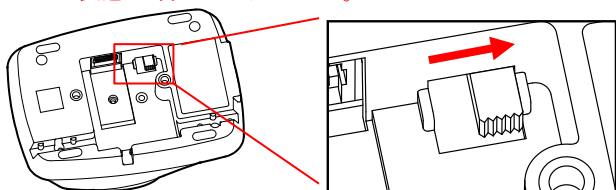
18.2. USB 仮想 COM インターフェース

スキャナは、読み取ったバーコードデータをクレードルにワイヤレスで送信し、クレードルはホスト PC に擬似的なシリアル通信でデータを送信します。シリアル通信を行うには、①適切なドライバのインストールと、②適切な受信ソフトウェアの使用が求められます。

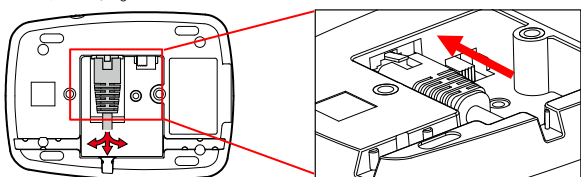
USB 仮想 COM エミュレーションは、Windows のみを正式にサポートしています。その他の OS についてはドライバおよびソフトウェアの提供は行っておりません。あらかじめご了承ください。

1. クレードルのインターフェーススイッチを『右』へ切り替えます。

注 この操作は、必ずすべてのケーブルを取り外した状態で行ってください。



2. USB インターフェースケーブルをクレードルのインターフェースポートへ接続し、ケーブルをクレードルのガイドスロットに沿ってはめ込みます。



3. 専用の USB インターフェースケーブルを使用してホスト PC の USB ポートに接続します。はじめてホスト PC に接続した場合、ドライバのインストールが必要です。ドライバのインストールについては [18.2.1.USB CDC ドライバ](#) (125 ページ) をご覧下さい。

クレードルが使用可能になるまで、クレードルの LED ランプは赤色に点灯し続けます。ドライバがインストールされ使用可能になると、次のようにランプが点灯します。

緑色の点灯：次の手順 4 を行います。

青色の点滅：次の手順はスキップし手順 5 を行います。(手順 4 を行うこともできます)

4. クレードルの LED ランプが消えるまで、2 秒間クレードルボタンを押し続け、その後、開放します。クレードルの LED ランプが緑色の点

滅に変化し、続いて青色の点滅に変化します。

5. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
6. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

7. スキャナをクレードルに置くとペアリングが自動的に開始されます。
8. ペアリングが完了すると、クレードルおよびスキャナ双方の LED インジケータが青色に点灯し使用可能になります。
9. シリアル通信のソフトウェアをホスト PC でセットアップして実行します。

シリアル通信のソフトウェアをお持ちでない場合は、無償の **COM2KEY** を使用してシリアル通信を行うことができます。**COM2KEY** を使用したデータ受信をご希望の場合は、続けて [20.COM2KEY について](#) (133 ページ) をご確認ください。

18.2.1. USB CDC ドライバ

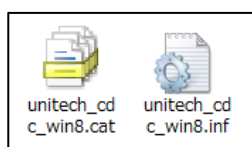
18.2.1.1. ドライバのダウンロードとインストール

Windows 10 以降の OS を使用している場合、ドライバは Windows に含まれています。この場合、ドライバのインストールは必要ありませんので、そのまま次へ進んでください。

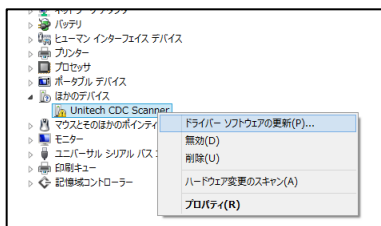
Windows 8.1 以前の OS を使用している場合、以下の手順に沿ってドライバのインストールを行ってください。対応 OS は、Windows 7/8/8.1(32/64 ビット)です。

1. 以下のリンクからドライバをダウンロードし、任意の場所へ解凍し展開します。
http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852/OG/signed_CDC_driver.zip

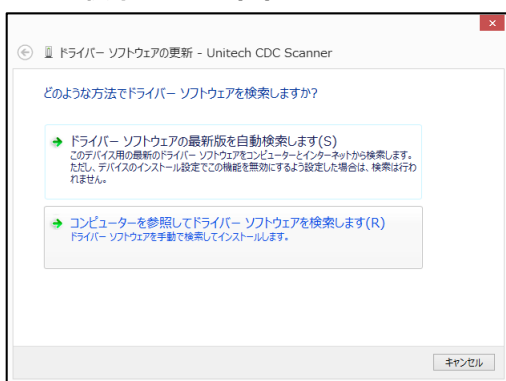
2. 展開したフォルダに 2 つのファイルが存在することを確認します。



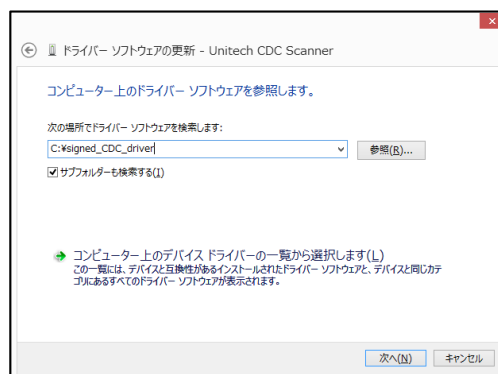
3. デバイスマネージャーを実行し、Unitech C DC Scanner を右クリックし、ドライバーソフトウェアの更新をクリックします。



4. コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します (R) をクリックします。



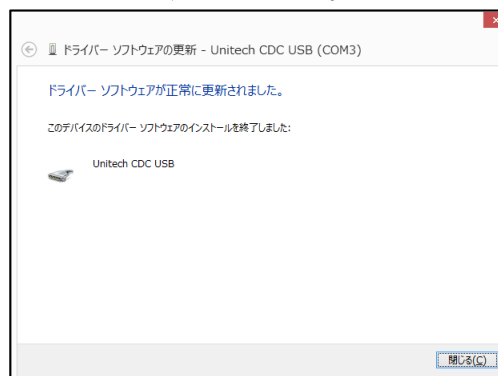
5. 参照ボタンをクリックして、ドライバを展開したフォルダを選択します。その後、次へボタンをクリックします。
例では、C ドライブの直下に「signed_CDC_driver」という名称のフォルダを作成し、そこへ展開しています。



6. このデバイスソフトウェアをインストールしますか? という設問には、インストールボタンをクリックして続行します。



7. ドライバが正常にインストールされると、次のダイアログが表示されます。

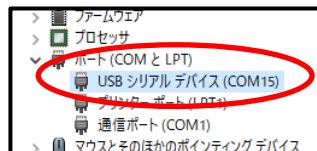


18.2.1.2. COM ポート番号の確認

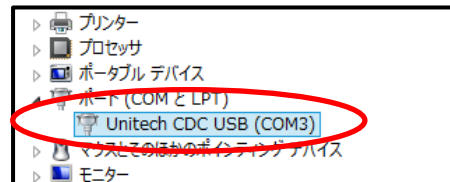
Windows のデバイスマネージャーを使用して、**スキャナがデータの送信に使用している COM ポートの番号**を確認します。ソフトウェア (COM2KEY を含む) は、この COM ポート番号に対してデータを受信できるようにセットアップする必要があります。ソフトウェアがデータを受信できない場合は、この COM ポート番号が変更されている可能性があります。

【参考】デバイス マネージャーを開く

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4026149/windows-open-device-manager>



Windows10 以降



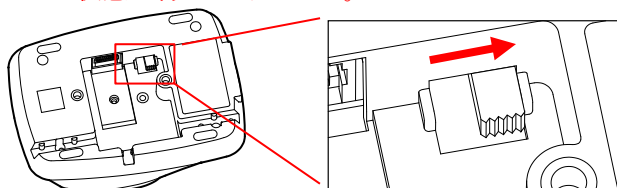
Windows 8.1 以前

18.3. RS232C インターフェース

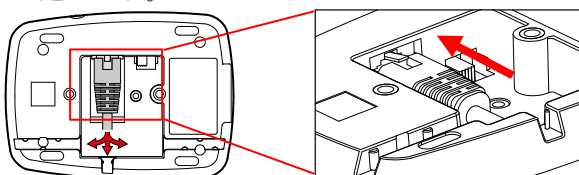
スキャナは、読み取ったバーコードデータをクレードルにワイヤレスで送信し、クレードルはホスト PC にシリアル通信でデータを送信します。この接続方式では、ホスト PC 側に物理的な RS232C ポート (D-SUB9 コネクタ) が 1 つ必要です。ホスト側で USB⇄RS232C インターフェース変換ケーブルを使用している場合、正常に動作しない可能性があります。

1. クレードルのインターフェーススイッチを『右』へ切り替えます。

注 この操作は、必ずすべてのケーブルを取り外した状態で行ってください。



2. RS232C インターフェースケーブルをクレードルのインターフェースポートへ接続し、ケーブルをクレードルのガイドスロットに沿ってはめ込みます。



3. 専用の RS232C インターフェースケーブルを使用してホスト PC の RS232C ポートに接続します。

クレードルが使用可能になるまで、クレードルの LED ランプは赤色に点灯し続けます。ドライバがインストールされ使用可能になると、次のようにランプが点灯します。

緑色の点灯：次の手順 4 を行います。

青色の点滅：次の手順はスキップし手順 5 を行います。(手順 4 を行うこともできます)

4. クレードルの LED ランプが消えるまで、2 秒間クレードルボタンを押し続け、その後、開放します。クレードルの LED ランプが緑色の点滅に変化し、続いて青色の点滅に変化します。
5. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。

6. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

7. スキャナをクレードルに置くとペアリングが自動的に開始されます。
8. ペアリングが完了すると、クレードルおよびスキャナ双方の LED インジケータが青色に点灯し使用可能になります。
9. シリアル通信のソフトウェアをホスト PC でセットアップして実行します。お持ちでない場合は、ユニテックの用意した無償の **COM2KEY** を使用してシリアル通信を行うことができます。**COM2KEY** を使用したデータ受信をご希望の場合は、続けて [20.COM2KEY について](#) (133 ページ) をご確認ください。

19. Bluetooth®を使用した接続方法

19.1. BT/BLE キーボード

Bluetooth®接続における標準の接続方法です。BT キーボード接続は、ノート PC、スマホ、タブレットなど、ほとんどの環境で動作することができます。BLE キーボード接続は、BT キーボード接続よりも高速な接続やデータ転送を実現できますが、使用できるかどうかはホスト PC の OS や環境に依存します。とくに理由がない限り BT キーボード接続を行うことをお勧めいたします。

19.1.1. Windows 10 との接続例

次のマイクロソフトのサポートページでも同様の手順を確認することができます。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/15290/windows-connect-bluetooth-device>

1. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
2. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

3. スキャナで [8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT キーボードを読み取ります。



BT キーボード

4. [Windows スタート] → [設定] → [デバイス] → [Bluetooth とその他のデバイス] に移動し、Bluetooth をオンにします。
5. ペアリング済みの [MS851B_XXXX] (XXX X はスキャナ固有の値) があれば削除します。
6. [+Bluetooth またはその他のデバイスを追加する] をクリックし、[*Bluetooth] をクリックします。
7. [MS851B_XXXX] をクリックします。

8. 接続完了を示す画面が PC に表示されます。スキャナは接続完了音を鳴動し、青色ランプが点灯します。

どちらか片方だけでは正常に接続出来ていません。うまく接続できない場合は、ホスト PC の再起動を行い、もう一度手順の最初から行ってください。

19.1.2. Android との接続例

次の Google のサポートページでも同様の手順を確認することができます。

<https://support.google.com/android/answer/9075925?hl=ja>

注 Android は画面の表示や操作方法の規格が統一されていません。そのため、メーカーや機種の違いによって操作方法が下記の手順と異なる場合がありますのでご注意ください。

1. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
2. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

3. スキャナで [8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT キーボードを読み取ります。



BT キーボード

4. [設定] → [接続済みの端末] → [接続の設定] → [Bluetooth] に移動し、Bluetooth をオンにします。
5. [設定] → [接続済みの端末] に進み、[現在接続されている端末] に [MS851B_XXXX] があれば、[削除] → [このデバイスとのペア設定を解除] してください。
6. [新しいデバイスとペア設定する] をタッチし、[使用可能なデバイス] に [MS851B_XXX X] が表示されるまで待機します。
7. [MS851B_XXXX] をタッチ → [連絡先と通話履歴へのアクセスを許可する] をチェック → [ペア設定する] をタッチします。
8. 接続が完了すると [設定] → [接続済みの端末] の [現在接続されている端末] に [MS851B_XXXX] がリストされます。スキャナは

接続完了音を鳴動し、青色ランプが点灯します。

9. [設定] → [システム] → [言語と入力] → [物理キーボード] → [キーボードアシスタント] → [仮想キーボードの表示] を有効化します。この設定が無効の場合は、スキャナ接続中は画面キーボードが表示されなくなります。
10. スキャナが読み取ったバーコードのデータは、Android の画面キーボードが日本語入力の場合、正しく出力されません。

お勧めの画面キーボードは、google が製作・公開している「**gboard**」です。こちらのキーボードは英語入力、日本語入力の双方に対応し、任意にユーザーが切り替えることができます。 ※本ソフトウェアを使用して発生した如何なる損害も弊社では補償できかねますのでご了承ください。

「**gboard**」を使用してスキャナからのバーコードデータを表示する場合は、以下の Google ヘルプセンターの [Gboard で言語を追加する] の方法で [英語(米国) QWERTY] を追加し、バーコードデータを受信する前に、同ページの [言語切り替えキーを使用して言語を切り替える] の方法で画面キーボードを英語入力へ切り替えます。

<https://support.google.com/gboard/answer/7068494?co=GENIE.Platform%3DAndroid&hl=ja>

19.1.3. OS (iPhone 等) との接続例

次の Apple のサポートページでも同様の手順を確認することができます。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT204091>

1. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
2. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

3. スキャナで [8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT キーボードを読み取ります。



BT キーボード

4. [設定] → [Bluetooth] に進み Bluetooth を [オン] にします。
5. [設定] → [Bluetooth] に進み、[自分のデバイス] に [MS851B_XXXX] があれば、右の [i] をタッチして [このデバイスの登録を解除] → [デバイスの登録を解除] してください。
6. [設定] → [Bluetooth] に進み、デバイスに [MS851B_XXXX] が表示されるまで待機します。
7. [MS851B_XXXX] をタッチします。
8. 接続が完了すると [設定] → [Bluetooth] の [自分のデバイス] に [MS851B_XXXX] がリストされます。スキャナは接続完了音を鳴動し、青色ランプが点灯します。
9. スキャナとの接続中に、スキャナ本体のトリガーボタンを素早く 2 回引くことで、画面キーボードの表示と非表示を相互に切り替えることが

できます。

10. スキャナが読み取ったデータは、iOS の画面キーボードが日本語入力の場合、正しく出力されません。

正しく出力するには、画面キーボードを[英語]、[英語(アメリカ)]または[英語(日本)]に変更しておく必要があります。これらの画面キーボードがない場合は、 [設定] → [一般] → [キーボード] → [キーボード] → [新しいキーボードを追加] から追加する必要があります。

11. 以下は、テストのための項目です。

Safari で Google や yahoo にアクセスして検索ボックスをタッチします。スキャナ本体のトリガーボタンを素早く 2 回引いて画面キーボードを表示させます。画面キーボードの [地球] アイコンをタッチまたはロングタッチし、[英語]、[英語(アメリカ)]または[英語(日本)]を選択します。

画面キーボードを[英語]、[英語(アメリカ)]または[英語(日本)]に変更してから、スキャナでバーコードを読み取ると、画面のカーソルの位置に読み取ったバーコードのデータが表示されます。

19.2. BT SPP

Bluetooth®接続で、擬似的なシリアル通信を行う接続方法です。シリアル通信を使用するには適切な受信用のソフトウェアを使用する必要があります。ソフトウェアには、ユニテックが無償で提供している Windows 専用の COM2KEY を使用することができます。

注 iOS (iPhone、iPad、iPod) は、BT SPP での接続には対応していません。

19.2.1. Windows 10 との接続例

次のマイクロソフトのサポートページでも同様の手順を確認することができます。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/15290/windows-connect-bluetooth-device>

1. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
2. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

3. スキャナで [8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT SPP を読み取ります。



BT SPP

4. スキャナで [8.6.BT SPP 自動接続](#) (41 ページ) の無効を読み取ります。



無効

5. [Windows スタート] → [設定] → [デバイス] → [Bluetooth とその他のデバイス] に移動し、Bluetooth をオンにします。
6. ペアリング済みの [MS851B_XXXX] (XXX X はスキャナ固有の値) があれば削除します。
7. [Bluetooth またはその他のデバイスを追加

する]をクリックし、[Bluetooth]をクリックします。

8. [MS851B_XXXX]をクリックします。
9. 接続完了を示す画面が PC に表示されます。スキャナはピピと鳴動し、緑色ランプが点灯します。
10. [Windows スタート] → [設定] → [デバイス] → [Bluetooth とその他のデバイス] → [関連設定] の [その他の Bluetooth オプション] をクリックします。
11. [Bluetooth 設定] ダイアログの [COM ポート] タブへ移動します。
12. ペアリングされた [MS851B_XXXX] に対して [発信] 方向と [着信] 方向の 2 つの COM ポートが作成されています。
[発信] 方向の COM ポートからのデータを、COM2KEY やその他のソフトウェアを使用して受信します。
COM2KEY を使用したデータ受信をご希望の場合は、続けて [20.COM2KEY について](#) (133 ページ) をご確認ください。

19.2.2. Android との接続例

次の Google のサポートページでも同様の手順を確認することができます。

<https://support.google.com/android/answer/9075925?hl=ja>

注 Android は画面の表示や操作方法の規格が統一されていません。そのため、メーカーや機種の違いによって操作方法が下記の手順と異なる場合がありますのでご注意ください。

注 Android 向けのデータ受信用アプリは用意されておりません。SPP によるデータ受信に対応したアプリをご使用者様にてご用意ください。

基本的には、接続に使用する SPP 対応アプリが示す接続手順に従って操作してください。

以下は Android における一般的な SPP でのペアリングの方法について掲載していますが、アプリによっては、この方法でのペアリングをサポートしていない場合がありますのでご注意ください。

1. スキャナのトリガーボタンを 2 秒以上引き続け、スキャナの電源をオンにします。
2. スキャナで [8.4.ペアリング情報削除](#) (40 ページ) を読み取ります。



ペアリング情報削除

3. スキャナで [8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の **BT SPP** を読み取ります。



BT SPP

4. [設定] → [接続済みの端末] → [接続の設定] → [Bluetooth] に移動し、Bluetooth をオンにします。
5. [設定] → [接続済みの端末] に進み、[現在接続されている端末] に **[MS851B_XXXX]** があれば、[削除] → [このデバイスとのペア設定を解除] してください。
6. [新しいデバイスとペア設定する] をタッチし、[使用可能なデバイス] に **[MS851B_XXXX]** が表示されるまで待機します。

7. **[MS851B_XXXX]** をタッチ → [連絡先と通話履歴へのアクセスを許可する] をチェック → [ペア設定する] をタッチします。
8. 接続が完了すると [設定] → [接続済みの端末] の [現在接続されている端末] に **[MS851B_XXXX]** がリストされます。スキャナはピピと鳴動し、緑色ランプが点灯します。

20. COM2KEY について

COM2KEY は、指定した COM ポートからのデータを受信し、アクティブ（最前面）なソフトウェアに対してデータを再送信します。COM2KEY は、弊社 Web ページにてフリーウェアとして公開されております。操作方法については、同梱のユーザーマニュアルを参照してください。

《COM2KEY》

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/COM2KB-V3.4.zip>

21. よくある質問

Q XX 桁で幅が XX ミリのバーコードは読取れますか？

Q 紙以外に印字されたバーコードは読取れますか？

Q コンベアで流れてくる商品に貼付けられているバーコードは読み取れますか？

Q 曲面に貼付けられたバーコードは読取れますか？

Q バーコードからどのくらい離して読取れますか？

A ユニテックのスキナは、ご購入前に事前のご評価を充分に行なっていただくための無償のお貸し出しを実施しております。バーコードは、データ量、印字サイズ、周辺環境、その他の外的要因によって読取りの精度が変化します。例えばオフィスでは読めたのに倉庫だと読めない（周囲が暗かった）といったこともございます。実際の環境での事前の十分な検証をユニテックは推奨しております。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

Q XX という機器で使用できますか？

Q XX に Bluetooth で接続できますか？

Q 安定した Bluetooth 通信を保証できますか？

Q XX というアプリ、ソフトウェアで使用できますか？

A ユニテックのスキナは、ご購入前に事前のご評価を充分に行なっていただくための無償のお貸し出しを実施しております。通信については、ホストの Bluetooth や OS の状態、周辺環境、接続されている周辺機器、その他の内的、外的要因に依存し変化します。実際の環境での事前の十分な検証をユニテックは推奨しております。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

Q 設定バーコードが読取れません。

Q 設定バーコードを読取るとエラー音が鳴ります。

A 本マニュアルの 1 ページ目を参照し、本マニュアルの対象機器かどうかを確認してください。次にターゲットの設定バーコードが掲載されたページを A4 等倍にて印刷して読取れるか確認してみてください。

Q バーコードを読取ったり読取らなかったり不安定です。

Q バーコードの読み取り速度を上げたい。

A スキナの適切に読取れる仕様でバーコードが生成されていない可能性があります。ターゲットの大きさ、幅、文字数などを変更したり、上位の機種に変更したりすることを検討してください。

Q 専用クレードルに何台のスキナを接続して使用できますか？

A 1 台につき最大 1 台のスキナを接続して使用できます。

Q パソコンの電源がオフのとき、クレードルで充電ができない。

A クレードルが充電を行うためには USB からの給電が必要です。パソコンの電源がオフのときに USB 側の給電が停止する場合は充電できません。その場合は、USB-C ケーブルを使用した直接充電や、電源アダプタ付きの USB ハブを使用するなどをご検討ください。

Q クレードルは RS232 インターフェースをサポートしていますか？

A はい、サポートしています。RS232 インターフェースが必要な場合は、RS232 ケーブル付属モデルをお求めください。

Q USB ケーブルモデルのクレードルに別売の RS232 ケーブルを接続して RS232 モデルとして使用できますか？ また、その逆は可能ですか？

A はい、可能です。クレードルのインターフェーススイッチを切り替えることで、USB、RS232、どちらのインターフェースにも対応できます。

Q USB モデルに付属している USB ケーブルの長さを教えてください。

A 2.0 メートル（コネクタ含む）です。

Q USB ケーブルの USB コネクタの形状を教えてください。

A タイプ A オスです。

Q RS232 モデルに付属している RS232 ケーブルの長さを教えてください。

A 2.0 メートル（コネクタ含む）です。

Q RS232 ケーブルのホスト側コネクタの形状を教えてください。

A D-Sub9 ピン メスです。

Q RS232 ケーブルのピン配置を教えてください。

A [2.11.2.D-SUB 9 コネクタの信号](#)（18 ページ）をご確認ください。

Q XX 用にカスタマイズされた RS232 ケーブルまたは変換コネクタを用意してもらえますか？

A 申し訳ございませんがケーブルおよびコネクタの製作は承っておりません。

Q RS232 モデルはホストからの直接給電に対応していますか？

A はい。9 番ピンへの 5V 電源供給に対応しています。

Q 1 台のホスト機器（クレードル除く）に最大何台のスクナを同時に接続できますか？

A ペ어링は最大 255 台、同時使用は最大 7 台です。この値はホスト機器側の Bluetooth®機能に依存します。たとえば iPhone は同時接続が最大 3 台に制限されています。ホスト側の性能やシステムによっては、同時接続数が増えるほど動作が不安定になります。特殊な用途の場合を除き 2 台以上のスクナを 1 台のホストで使用することはお勧めできません。

Q スキャナは複数のホスト機器とペアリングして切り替えながら使用できますか？

A いいえ、できません。本機はマルチペアリングに対応しておりません。別のホスト機器へ接続を切り替える場合は、以前のホスト機器との接続を解消し、新しいホスト機器と新しくペアリングを行う必要があります。

Q Bluetooth 接続で推奨される Bluetooth ドングル（USB アダプタ）を教えてください。

A 当社では推奨品は準備しておりません。無償で評価機をお貸出ししておりますので、お客様にて事前に十分な検証を行ってください。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

Q Bluetooth で再ペアリングできません。

A 以前の登録情報がホストに残っている場合は削除してから実行してください。

Q 画面キーボードが表示されなくなりました。（iPhone、iPad、iPod）

A トリガーボタンを素早く 2 回引くと表示されます。詳しくは [14.11.iOS ソフトキーボード](#)（71 ページ）を参照してください。

Q 画面キーボードが表示されなくなりました。（Android）

A 次の Google サポートページの手順 2 を参考に設定してください。※当該ページは当社の管理するページではございませんので、予告なく変更、削除される場合があります。

<https://support.google.com/accessibility/android/answer/6301490?hl=ja>

抜粋：

Android 7 以降：設定内の[言語と入力]→[物理キーボード]→[仮想キーボードの表示]をオン

Android 6 以前：設定内の[言語と入力]→[現在のキーボード]→[ハードウェア]（[スクリーン キーボードを表示する]）を選択

Q バーコードデータ後の自動改行/自動実行が行われない、または行われなくなった。（iPhone、iPad、iPod）

A 画面キーボードの設定が「英語」、「英語（アメリカ）」または「英語（日本）」になっているか確認してください。「日本語」、「日本語（かな）」や「日本語（ローマ字）」では正しく操作が行われません。

Q バーコードデータ後の自動改行/自動実行が行われない、または行われなくなった。（Android）

A 仮想キーボードの設定が英語直接入力になっているか確認してください。「日本語ローマ字入力」や「日本語かな入力」では正しく操作が行われません。Android には多種多様な仮想キーボードが存在し、それぞれに設定方法や仕様が異なるため、これらの操作に対応できない場合もあります。

Q バーコードデータ後の自動改行/自動実行が行われない、または行われなくなった。（Windows）

A IME が半角直接入力（IME オフ）になっているか確認してください。「ローマ字入力」や「かな入力」

などの文字変換を伴う入力方法では正しく操作が行われません。

Q Bluetooth で自動的に再接続できない

A スキャナおよびホストの再起動（電源オフ→オン）を行ってみてください。

スキャナ本体：トリガーボタンを 5 秒以上長押し→トリガーボタンを 2 秒以上長押し

Windows 8.1 以前：シャットダウン→電源オン

Windows 10 以降：[設定]→[更新とセキュリティ]→[回復]→[今すぐ再起動]→[PC の電源を切る]→電源オン

iPhone、iPad、iPod：電源オフ→電源オン ※各機種のマニュアルなどを確認してください。

Android：電源オフ→電源オン ※各機種のマニュアルなどを確認してください。

Q 同じ文字が何回も続けて入力される。

A 電波環境が悪い状態でバーコードの読み取りを行うと発生します。ホスト機器やクレードルから離れた場所で読み取っている場合は、近づいてから読み取ってみてください。近距離でも発生する場合は、付近にノイズ源や他の 2.4GHz で動作している機器がないかご確認ください。

Q BT/BLE キーボード接続時、データの一部が欠けてしまいます。

A [11.1.USB/BT/BLE キーボード文字間遅延](#)（49 ページ）を大きい値に設定してみてください。

Q 液晶画面に表示されたバーコード読取れますか？

A いいえ、読取れません。また、透過性の台紙（例：ガラス）や反射性の強い台紙（例：鏡面）上のバーコードも読取ることができません。

Q バーコード読取後の改行を無効化できますか？

Q バーコード読取後の改行を Tab に変更できますか？

A [13.4.ターミネーター](#)（61 ページ）を使用して設定してください。

Q 一部の制御コードが送信されません。（例：0x0D,0x0A が 0x0D になる）

A [13.8.バーコード内の制御コードの送信](#)（64 ページ）を「すべて送信」に設定してください。

Q バーコードの誤読対策を行えますか？

A 各バーコードのセキュリティレベル設定をご確認ください。

Q 特定のバーコードを読取ることができません

A ターゲットのバーコードの種類・規格を確認し、[17.標準設定値一覧](#)（118 ページ）の該当するバーコードの設定項目の標準値を確認してください。標準では読取りが無効になっていたり、読取り桁数が制限されていたりする場合がありますので、適切な設定に変更してください。バーコードの規格が分からない場合は、バーコードの制作元へ確認してください。

Q JAN-13 コードを読むと先頭の「0」が消えてしまいます

A [15.2.14.UPC-A プリアンブル](#)（81 ページ）を「カントリーコード+システムキャラクタ」に設定してください。

Q 書籍用二段バーコードを 1 回のスキャンで読み取りできますか？

A いいえ、できません。

Q JAN コードの右の 3 桁または 5 桁のコードも一回のスキャンで読み取りできますか？

A [15.2.7.UPC/JAN アドオンコードの読取り](#) (75 ページ) を適切に設定してください。

Q データの開始と終了に A~D のアルファベットが送信されてしまいます

A [15.9.4.NW-7 スタート・ストップキャラクタの送信](#) (105 ページ) を「送信しない」に設定してください。ターゲットのバーコードが Codabar (NW-7) 以外の場合は対応できません。

Q GS1 系のバーコードを括弧付きで送信できますか？

A スキャナは AI の編集に対応していないためできません。

Q Excel に送信したら文字化けしてしまいます (E+が表示される)

A セルの書式設定を適切なもの (数値や文字列など) へ変更してください。

Q 特定の記号が異なる記号で表示されてしまいます

A [11.4.キーボードレイアウト](#) (51 ページ) を「日本語」に設定してください。

Q キーボードの入力状態に左右されずに常に正しくデータを送信できますか？

A [11.4.キーボードレイアウト](#) (51 ページ) の「ALT モード」を設定してください。この機能は OS や使用するソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。ご注意ください。

Q バーコードの自動読取りを行えますか？ (ハンドフリー動作)

A [14.2.スキャンモード](#) (66 ページ) の「連続」または「点滅」をご利用ください。スキャナは、ハンドフリースタンド (製造番号: 5200-900010G) と組み合わせて、ハンドフリーで 사용할 こともできます。

Q データの XX 文字目から XX 文字目だけ送信できますか？

Q データを任意の形式に編集して送信できますか？

A いいえ、できません。本機は読み取ったデータを編集して出力する機能をサポートしておりません。

Q ホストからスキャナをコントロールできますか？

A いいえ、できません。

Q MS852B のメーカー標準保証期間を教えてください。

A 1 年間です。

Q 修理を依頼したい

A インターネットブラウザで <http://www.unitech-japan.co.jp/service/> へアクセスし、同ページにリンクされている「修理依頼書」をダウンロードしてください。

22. ASCII 文字セット

クレードル接続方式の USB キーボードインターフェース、[8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT キーボードまたは BLE キーボードが選択されている場合はキーストロークとして、クレードル接続方式の USB 仮想 COM インターフェースまたは RS232C インターフェース、[8.3.Bluetooth®通信タイプ](#) (39 ページ) の BT SPP が選択されている場合は ASCII コードとして送信されます。

16 進 0x00～0x1F の値を出力したい場合、[13.8.バーコード内の制御コードの送信](#) (64 ページ) を適切に設定してください。

一部の記号が表示されない、または違う記号で表示される場合、[11.4.キーボードレイアウト](#) (51 ページ) を適切に設定してください。

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード	16 進
1000	%U	CTRL + 2	NUL	0x00
1001	\$A	CTRL + A	SOH	0x01
1002	\$B	CTRL + B	STX	0x02
1003	\$C	CTRL + C	ETX	0x03
1004	\$D	CTRL + D	EOT	0x04
1005	\$E	CTRL + E	ENQ	0x05
1006	\$F	CTRL + F	ACK	0x06
1007	\$G	CTRL + G	BEL	0x07
1008	\$H	Back Space	BS	0x08
1009	\$I	Tab	HT	0x09
1010	\$J	CTRL + J	LF	0x0A
1011	\$K	CTRL + K	VT	0x0B
1012	\$L	CTRL + L	FF	0x0C
1013	\$M	Enter	CR	0x0D
1014	\$N	CTRL + N	SO	0x0E
1015	\$O	CTRL + O	SI	0x0F
1016	\$P	CTRL + P	DLE	0x10
1017	\$Q	CTRL + Q	DC1	0x11
1018	\$R	CTRL + R	DC2	0x12
1019	\$S	CTRL + S	DC3	0x13

ASCII 文字セット (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード	16 進
1020	\$T	CTRL + T	DC4	0x14
1021	\$U	CTRL + U	NAK	0x15
1022	\$V	CTRL + V	SYN	0x16
1023	\$W	CTRL + W	ETB	0x17
1024	\$X	CTRL + X	CAN	0x18
1025	\$Y	CTRL + Y	EM	0x19
1026	\$Z	CTRL + Z	SUB	0x1A
1027	%A	Escape	ESC	0x1B
1028	%B	CTRL + \	FS	0x1C
1029	%C	CTRL +]	GS	0x1D
1030	%D	CTRL + 6	RS	0x1E
1031	%E	CTRL + -	US	0x1F
1032	Space	Space	Space	0x20
1033	/A	!	!	0x21
1034	/B	"	"	0x22
1035	/C	#	#	0x23
1036	/D	\$	\$	0x24
1037	/E	%	%	0x25
1038	/F	&	&	0x26
1039	/G	'	'	0x27
1040	/H	((0x28
1041	/I))	0x29
1042	/J	*	*	0x2A
1043	/K	+	+	0x2B
1044	/L	,	,	0x2C
1045	-	-	-	0x2D
1046	.	.	.	0x2E
1047	/O	/	/	0x2F

ASCII 文字セット (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード	16 進
1048	0	0	0	0x30
1049	1	1	1	0x31
1050	2	2	2	0x32
1051	3	3	3	0x33
1052	4	4	4	0x34
1053	5	5	5	0x35
1054	6	6	6	0x36
1055	7	7	7	0x37
1056	8	8	8	0x38
1057	9	9	9	0x39
1058	/Z	:	:	0x3A
1059	%F	;	;	0x3B
1060	%G	<	<	0x3C
1061	%H	=	=	0x3D
1062	%I	>	>	0x3E
1063	%J	?	?	0x3F
1064	%V	@	@	0x40
1065	A	A	A	0x41
1066	B	B	B	0x42
1067	C	C	C	0x43
1068	D	D	D	0x44
1069	E	E	E	0x45
1070	F	F	F	0x46
1071	G	G	G	0x47
1072	H	H	H	0x48
1073	I	I	I	0x49
1074	J	J	J	0x4A
1075	K	K	K	0x4B
1076	L	L	L	0x4C

ASCII 文字セット (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード	16 進
1077	M	M	M	0x4D
1078	N	N	N	0x4E
1079	O	O	O	0x4F
1080	P	P	P	0x50
1081	Q	Q	Q	0x51
1082	R	R	R	0x52
1083	S	S	S	0x53
1084	T	T	T	0x54
1085	U	U	U	0x55
1086	V	V	V	0x56
1087	W	W	W	0x57
1088	X	X	X	0x58
1089	Y	Y	Y	0x59
1090	Z	Z	Z	0x5A
1091	%K	[[0x5B
1092	%L	\	\	0x5C
1093	%M]]	0x5D
1094	%N	^	^	0x5E
1095	%O	_	_	0x5F
1096	%W	`	`	0x60
1097	+A	a	a	0x61
1098	+B	b	b	0x62
1099	+C	c	c	0x63
1100	+D	d	d	0x64
1101	+E	e	e	0x65
1102	+F	f	f	0x66
1103	+G	g	g	0x67
1104	+H	h	h	0x68
1105	+I	i	i	0x69

ASCII 文字セット (続き)

Prefix/Suffix 値	フル ASCII Code 39 エンコード文字	キーストローク	ASCII コード	16 進
1106	+J	j	j	0x6A
1107	+K	k	k	0x6B
1108	+L	l	l	0x6C
1109	+M	m	m	0x6D
1110	+N	n	n	0x6E
1111	+O	o	o	0x6F
1112	+P	p	p	0x70
1113	+Q	q	q	0x71
1114	+R	r	r	0x72
1115	+S	s	s	0x73
1116	+T	t	t	0x74
1117	+U	u	u	0x75
1118	+V	v	v	0x76
1119	+W	w	w	0x77
1120	+X	x	x	0x78
1121	+Y	y	y	0x79
1122	+Z	z	z	0x7A
1123	%P	{	{	0x7B
1124	%Q			0x7C
1125	%R	}	}	0x7D
1126	%S	~	~	0x7E
1127	%T	Back Space	DEL	0x7F

23. 数字バーコード



0



2



4



6



8



キャンセル



1



3



5



7



9

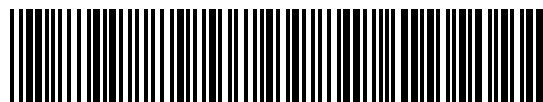
24. テストバーコード

Code 39 (チェックデジット付き)



UNITECHE

Code 39 (フル ASCII)



フル ASCII 有効: _abc012

フル ASCII 無効: %O+A+B+C012

Code 128



Unitech128

GS1-128



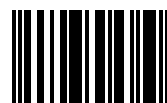
(01)1234567890128(30)12(17)191231

UPC-A



012345678905

UPC-E0



01234565

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

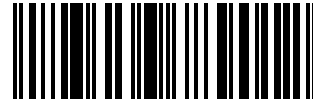
テストバーコード（続き）

JAN-13



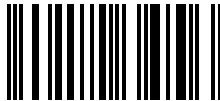
4912345678904

JAN-13（先頭0）



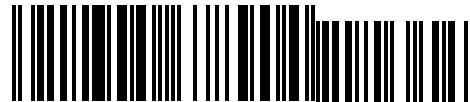
0123456789012

JAN-8



49123456

JAN-13（5桁アドオン）



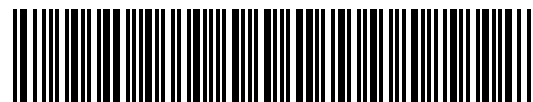
4912345678904 12345

JAN-13（2桁アドオン）



4912345678904 12

Codabar（チェックデジット付き）



A22357000599877A

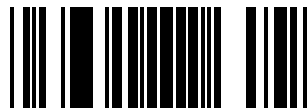
テストバーコード（続き）

Interleaved 2 of 5（チェックデジット付き）



12345678901231

GS1 Databar Omnidirectional



(01)45512345678903

GS1 Databar 多層型



(01)45598706543219

GS1 Databar Limited



(01)04512345678906

GS1 Databar Limited（台紙が黒）



(01)04512345678906

注 このバーコードはバーが白でスペースが黒の反転バーコードではありません。これは、バーは黒でスペースは白の標準バーコードの左右に空白（クワイエットゾーン）を加えたバーコードです。GS1 Databar の反転は規格外です。

GS1 Databar Expanded



(01)95012345678903(3103)000123

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

テストバーコード（続き）

GS1 Databar Expanded 多層型



(01)95012345678903(17)191231

注 GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。